

レッドデータブックくれ

～ 呉市の絶滅のおそれのある野生動植物 ～



くれ環境市民の会



目 次

作成の概要

1. 作成の体制	2
2. 選定対象の範囲	2
3. 各分類群の担当者と解説・写真	2
4. 種の選定	3
5. 参考文献	3

選定種の解説

哺乳類	4
鳥 類	6
爬虫類	21
両生類	25
昆虫類	30
その他無脊椎動物	61
種子植物	64
シダ植物	90

和名索引	93
------	----

写 真

表 紙 : オシドリ (左上) オオムラサキ (右上)
 サギソウ (左下) スナガニ (右下)

裏表紙 : 灰ヶ峰のエビネ群落

作成の概要

1. 作成の体制

本書は、平成29（2017）年度に策定される『第2次呉市環境基本計画（改定版）』における参考資料として作成したものであり、編集は長年にわたって呉市を中心として動植物の調査研究を続けてきた「ひろしま自然の会」が担当し、「くれ環境市民の会」が発行した。

ひろしま自然の会では、「レッドデータブックくれ」の作成を会員に呼びかけ、それぞれ専門の分類群ごとに担当者を定めて、それぞれの担当者が分類群における種の解説を個別に記述した。そのため文章の統一感が欠けているが、その点をご了解いただきたい。

2. 選定対象の範囲

本書に掲載する動植物の範囲については、一般によく知られており、生物学的知見が比較的蓄積されている種のうち、短期間において、ひろしま自然の会会員が調査・執筆の可能な種を多く含む下記の分類群とした。

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類
昆虫類	その他無脊椎動物	種子植物	シダ植物

3. 各分類群の担当者と解説・写真

哺乳類	:	神垣健司
鳥類	:	鳴海末信
爬虫類	:	大川博志
両生類	:	大川博志
昆虫類	:	神垣健司（チョウ・トンボ） 住岡昭彦（チョウ・トンボを除く）
その他無脊椎動物	:	前西 聡（カニ類） 神垣健司（カニ類を除く）
種子植物	:	久藤広志
シダ植物	:	久藤広志
編集	:	神垣健司

本書では、種ごとに【種の概要】、【呉市における生息状況】、【衰亡の原因とその対策】の順に解説し、必要な場合には【特記事項】を追記している。また、写真は原則としてそれぞれの担当者が撮影し、呉市内で撮影した場合は撮影の日付と場所を附記している。なお、分類群の担当者以外が撮影した写真については、撮影者の氏名も附記した。

4. 種の選定

本書に掲載する種については、平成24（2012）年に広島県より発行された『広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）－レッドデータブックひろしま2011－』に掲載された種のうち、呉市において生息が確認された種を選定した。カテゴリー定義については、広島県全域と呉市では若干異なる種もあるが、本書では同一としている。

レッドデータブックひろしま カテゴリー定義

区 分	基 本 概 念
絶 滅	広島県ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの。
要注意種	評価するだけの情報が不足している種、または、広島県の自然特性等から保護上の重要度の高い種 現時点では絶滅危険度の評価は困難であるが、上記のランクに移行する要素を有するもの。

5. 参考文献

レッドデータブックひろしま改定検討委員会 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）－レッドデータブックひろしま2011－. 633pp. 広島県.

ニホンオオカミ

Canis lupus hodophilax

環境省 絶滅

広島県 絶滅

【種の概要】

ニホンオオカミは全北区に広く分布するオオカミの日本固有亜種、1905年に奈良県で捕獲された若い雄が最後の生息情報で、以後は確実な生息確認はない。

【呉市における生息状況】

江戸時代の物産帳で、仁方の生息が記述されている。

【衰亡の要因とその対策】

ニホンオオカミの絶滅の原因は明らかになっていないが、開発による生息域の分断や餌動物が乱獲されて

生息条件が悪化したことや、伝染病の蔓延や家犬との交雑なども絶滅の原因と考えられている。

【特記事項】

呉市には具体的にニホンオオカミの生息を証明する頭骨や毛皮などは残っていない。

ニホンカワウソ

Lutra nippon

環境省 絶滅

広島県 絶滅

【種の概要】

ニホンカワウソはカワウソの一種で、かつては日本全国に広く生息していた。分類学的には日本の固有種であるという説と、ユーラシアカワウソの亜種であるという説がある。河川の下流域や沿岸部に単独で生息し、主に夜間に活動して、魚やエビ、カニなどを食べていた。

【呉市における生息状況】

江戸時代の物産帳で、仁方及び安浦町三津口の生息が記述されている。

【衰亡の要因とその対策】

農薬や排水による水質悪化や河川の護岸工事や開発などによって、生息環境の悪化や餌となる魚等が激減したことが絶滅の原因と考えられている。

スナメリ

Neophocaena phocaenoides

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



【種の概要】

スナメリは、国内では伊勢湾、有明海、瀬戸内海に多く見られる。体長は平均150cm程度、体重は平均45kg程度の小型イルカで、体色は銀白色のような明るい

灰色、頭部は丸みを帯びていて、アジやイカナゴ・イワシなどの群集する魚を食べている。

【呉市における生息状況】

かつては蒲刈諸島や倉橋町沖に多く生息していたが、海砂採取に伴う魚類の減少により個体数が激減した。近年は愛媛県との県境付近の海域で稀に目撃される程度である。

【衰亡の要因とその対策】

沿岸の開発などにより生息環境の悪化と餌となる魚が減り、これに伴って本種の個体数も減少しているため、海域の環境改善が必要である。

カヤネズミ*Micromys minutus*

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

頭胴長 54～79mm、尾長 47～91mm、体重 7～14gの日本では最も小さなネズミである。本州、四国、九州に分布し、離島では隠岐、対馬にも生息する。河川敷や休耕田、背丈の高い草原や沼沢地などで、イネ科の植物が密生した、湿気のあるところに多く見られる。カヤなどの茎に、地上から0.6～1m程の高さのところに直径10cmほどのボール状の巣をつくり、種子や草類、穀物などのほか、バッタなどの昆虫を食べる。

【呉市における生息状況】

郷原町、広三坂地、仁方大歳町などで生息が確認されているが、いずれも個体数は少ない。市内の河川沿いにある草むらや山間の水田を調査すれば、もう少し広範囲に生息が確認できると思われる。

【衰亡の要因とその対策】

低地の草地やヨシの生えていた場所が人工的な環境に変わったり、植生遷移が進んで草原が雑木林化したことで、本種に適したイネ科植物の自然が失われてきた。カヤネズミの保護には、イネ科植物が安定して生育する草地や河川敷などの保全が必要である。



カヤネズミの巣 呉市仁方大歳町 2006年9月9日

ニホンイタチ*Mustela itatsi*

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

日本固有種で、本州・四国・九州に分布し、近年は北海道にも侵入している。冬眠することなく周年活動し、活動時間帯も特に定まっていない。基本的には単独行動で、川や溜め池、湿地、沢などの水辺を主な生息地としている。食性は主の動物食で、ネズミや鳥・両生類・カニなどを捕食する。

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰や野呂山などの山間部ではまだ多く見られるが、低地や市街地ではチョウセンイタチが優勢で、本種は個体数が減少している。

【衰亡の要因とその対策】

水田の減少や溜め池の消失、河川環境の変化などにより、生息地である水辺の環境が悪化したことが衰亡の主な要因である。

また外来種であるチョウセンイタチが市街地や平地部などで分布を広げ、ニホンイタチを駆逐しているといわれている。



呉市灰ヶ峰 2015年9月26日

シロエリオオハム

Gavia pacifica

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅰ類



呉市蒲刈町県民の浜 2006年8月31日 (撮影:前西 聡)

【種の概要】

全長約35cm。体は流線型をしており、首は太めで嘴はとがっている。冬羽は、上面は灰褐色で下面は白い。

【呉市における生息状況】

1960年代までは300-500羽くらい生息していたが、近年は冬季に少数の個体群が飛来する海域がある状況にとどまっている。

【衰亡の要因とその対策】

海砂の採取等により海底の環境が変化し餌となるイカナゴなどの小魚が減少し、また、生息海域を通行する船舶により生息できる海域も減少している。

【特記事項】

広島県は、アビ、シロエリオオハム、オオハムを総称して「アビ類」として県鳥にしている。その大半は、シロエリオオハムである。かつては本種の習性を利用した「取持網代漁」という漁法があり、現地の漁業関係者に保護されていた。

タマシギ

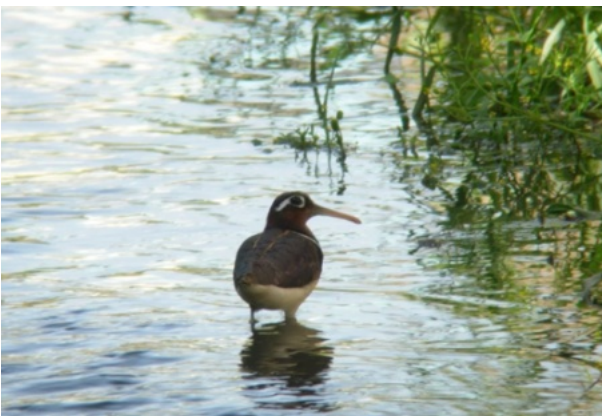
Rostratula benghalensis

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

全長約23.5cm。留鳥または漂鳥として本州中部以南に分布し、水田、湿地、休耕田に生息する。一雌多雄の繁殖習性を持ち、育雛は雄が行う。



呉市郷原町 2005年5月3日 (撮影:前西 聡)

【呉市における生息状況】

留鳥として、水田、休耕田、蓮田、水深の浅い湿地に生息しているが局地的。土地造成や乾田化等の土地利用の変化で生息地は急速に狭められており、生息環境は著しく悪化している。もともと個体数も少なく減少傾向にあったが、近年は個体数の減少や個体群の縮小が著しい。

【衰亡の要因とその対策】

市街地近郊の生息地は、大規模な土地造成で消失、縮小している。

生息地の多くは人間の生活活動が活発な場所でもあり、生産性を高めるための乾田化や、繁殖に欠かせない休耕田の減少等、生息地は急速に狭められている。

開発の影響を受けやすいため、生息地の宅地造成や農地転用等を防ぐ配慮が必要である。

コノハズク

環境省 なし

Otus scops

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

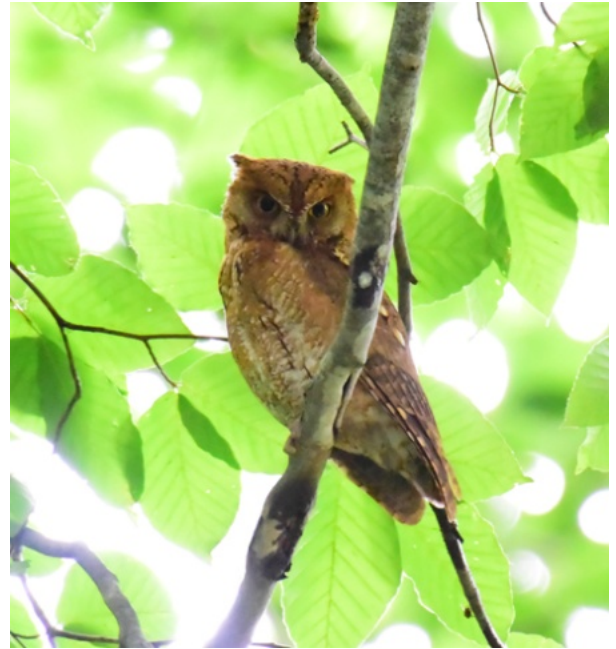
日本産フクロウ類中最小で、全長18-21cm。夏鳥として全国に渡来し、特に深山の森林に渡来し繁殖する。雌雄同色で、褐色型と赤色型があり全身に複雑な模様がある。羽角があり虹彩は黄色。主に蛾や甲虫などの昆虫類、クモ類、ムカデなどを捕食する。

【呉市における生息状況】

生息は確認されていないが、春と秋の渡り時期に確認される。

【衰亡の要因とその対策】

本種の主な生息地である大径木のある夏緑広葉樹林が開発や森林伐採により減少することが懸念される。また、自然林の観光化も生息を圧迫する要因となる。



(撮影：神垣健司)

ヤイロチョウ

環境省 絶滅危惧ⅠB類

Pitta nympha

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

全長18cm。少ない夏鳥として本州中部以南の山地の林に渡来し、低山の常緑樹林に生息する。雌雄同色で非常に美しい羽色。暗い林床などの地上でミミズや昆虫類を捕食する。

【呉市における生息状況】

生息は確認されていないが、春の渡り時期に確認される。

【衰亡の要因とその対策】

本種が生息する低山の林は、林道建設等森林の開発による樹木の伐採で、生息環境の悪化が続いている。

近年、越冬地の森林伐採の影響を受けて生息数は減少しているといわれ、国内への渡来数も減少傾向にある。



(鳥類標記調査)

コマドリ

環境省 なし

Luscinia akahige

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

全長14cm。夏鳥として北海道から九州の平地から亜高山帯の針葉樹林帯、針広混交林で林床にササなど下草が生えた環境に生息する。鳴声は美しく、オオルリ、ウグイスとともに日本3鳴鳥の一つとされる。

【呉市における生息状況】

生息は確認されていないが、春と秋の渡り時期に確認される。

【衰亡の要因とその対策】

繁殖地の多くは国定公園内にあるが、自然公園区域以外では森林が伐採される可能性がある。

また、生息地の森林保全だけでなく、マニアによる密漁の防止策が必要である。



呉市灰ヶ峰公園 2008年4月19日 (鳥類標識調査)

ミゾゴイ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Gorsachius goisagi

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



(撮影：神垣健司)

【種の概要】

全長約49cm。夏鳥として本州、四国、九州、伊豆諸島に渡来し、低山の森林に生息する。林床または沢等の水辺で、ミミズ、カニ、カエル、昆虫、小魚等の小動物を捕食する。本種は夜行性と考えられていたが、最近の研究で昼行性であることが判明した。

【呉市における生息状況】

夏鳥として渡来し、低山帯の良く茂った沢沿いに生息しているが、森林開発により生息環境の悪化が進んでいる。生息地が低山帯の鬱蒼とした林内であることから人目につきにくく、生息実態は不明な点も多いが、観察記録も極めて少ないことから、個体数は大幅に減少していると考えられる。

【衰亡の要因とその対策】

本種が生息する低山帯の林は民有林が多く、開発されやすい。数少ない生息地も、砂防ダムや林道建設等で生息木の樹木が伐採される等、営巣適地は減少している。里山の荒廃や耕作放棄によって、密生した藪が増加し、採餌環境は著しく減少している。

サシバ

Butastur indicus

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

全長約47-51cm。夏鳥として本州、四国、九州に渡来し、南西諸島では一部が越冬する。春や秋に群れでの渡りが各地で観察される。平地から山地の林、谷津田などの環境で繁殖する。主にトカゲやカエル、ヘビなど両生類、爬虫類、鳥類などを捕食する。

【呉市における生息状況】

夏鳥として渡来し、低山帯の林に生息している。

【衰亡の要因とその対策】

本種が生息する低山帯の林は民有林が多く、開発されやすい。圃場整備による水田周りの乾燥化によって餌生物が減少している。また、営巣に適したアカマツ林が枯れによって減少している。

【特記事項】

秋の渡りは9月下旬から10月上旬に集中しており、県内では瀬戸内海の島を通して四国に渡るルートが知られている。

られている。



呉市休山 2008年10月8日 (撮影：前西 聡)

クマタカ

Nisaetus nipalensis

環境省 絶滅危惧ⅠB類

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



(撮影：神垣健司)

【種の概要】

大型のタカ類。全長70-83cmで、雌のほうが大きい。北海道から九州までの各地に留鳥として生息する。山地の伐採地、草原、林道、林内などで中型の哺乳類、鳥類、爬虫類などを捕食する。

【呉市における生息状況】

南部の山地から北部まで県内に広く分布し、発達した森林と営巣場所となる急峻な地形を含む山林に生息する。

【衰亡の要因とその対策】

県南部では生息に適した森林が分断化されて行く可能性が高い。

少産で育児にコストをかけるというような繁殖戦力をとっているため、個体群が衰退してしまうとその回復に時間がかかる。

ヒクイナ

Porzana fusca

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

全長約23cm。夏鳥として全国の水田や湿地に渡来し、繁殖する。雌雄同色で、本州中部以南では越冬する個体もいる。

【呉市における生息状況】

夏鳥として渡来するが、越冬する個体も見られる。県内の分布域は広く、水田、河川、湖沼、水辺のアシ原等に生息・繁殖している。警戒心が強く、茂みを潜行するので目撃することは少ない。



呉市郷原町黒瀬川 2013年6月23日 (撮影: 前西 聡)



(撮影: 神垣健司)

【衰亡の要因とその対策】

生息地は人間の生産活動の活発な場所でもあり、土地造成によって生息地が消失する。

圃場整備や乾田化等による農地の改変や、河川改修によるアシ原の減少で生息環境は著しく減少している。

ヨタカ

Caprimulgus indicus

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

全長約29cm。夏鳥として平地から山地の林、森林内の伐採地、疎林、草原などに渡来し繁殖する。雌雄ほぼ同色で、夜間上空を飛びながら昆虫類を捕食する。

【呉市における生息状況】

県内全域に生息するが、全体的に声を聞くことが少なくなり、減少していると考えられる。特に県南部では減少が目立つ。

【衰亡の要因とその対策】

二次林や二次草地の宅地化や道路建設などの開発による生息地の消失・縮小が進んでいる。

また、二次林、二次草地が放置され鬱閉した環境に変化し、生息に適さなくなっている。



呉市灰ヶ峰公園 2015年9月20日 (鳥類標識調査)

サンショウクイ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Pericrocotus divaricatus

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

全長20cm。夏鳥または留鳥として本州、四国、九州、南西諸島の丘陵地から山地の林などに渡来、生息する。スマートな体形で尾は長め。東部から背面は灰色で胸から腹部は白色。雄の頭部は黒色。

【呉市における生息状況】

生息は確認されていないが、春と秋の渡り時期に確認される。

【衰亡の要因とその対策】

夏緑広葉樹林の伐採など生息環境の質的劣化が憂慮される。また、越冬地の大規模な森林伐採等による環境破壊も個体数減少へつながっていると考えられる。



呉市休山 2008年9月13日 (撮影：前西 聡)

クロサギ

環境省 なし

Egretta sacra

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

全長62cm。留鳥として本州以南に分布し岩礁海岸や干拓地、河口などに生息する。全身が黒っぽい黒色型と白色型があるが、広島県（本州、九州）には白色型はいない。

【呉市における生息状況】

沿岸部や島嶼部に生息し、海岸や干拓地などで見られるが、特に岩礁のある海岸を好む。個体数は多くなく、1～2羽で見られることが多い。また、ほかのサギ類のように繁殖コロニーを作らず、岩礁に単独で営巣する。

【衰亡の要因とその対策】

海岸の改変ともなっていて、営巣適地が減少していると考えられる。

釣り人などの意図しない巣への接近が、繁殖行動に影響する可能性がある。



(撮影：神垣健司)

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus

環境省

準絶滅危惧

広島県

準絶滅危惧



呉市休山 2017年10月9日 (撮影: 神垣健司)

【種の概要】

全長約57-61cm。夏鳥として北海道から九州の平地から山地の森林に渡来し繁殖する。昆虫類、爬虫類、両生類、鳥類などを捕食する。特にハチ類を好むことからこの名前がついた。春と秋に集団で渡りを行う。

【呉市における生息状況】

県内全域に生息するが、全体的に声を聞くことが少なくなり、減少していると考えられる。特に県南部では減少が目立つ。

【衰亡の要因とその対策】

森林の開発による生息・繁殖環境の悪化や、里山の荒廃ともなっており、餌となる地バチ類やカエルなどが減少していると考えられる。

【特記事項】

繁殖期の餌としてハチ類（クロスズメバチ）に依存した特異な食性を持つ。

オオタカ

Accipiter gentilis

環境省

準絶滅危惧

広島県

準絶滅危惧



呉市焼山中央 2015年3月31日 (撮影: 神垣健司)

【種の概要】

全長50-58cmで、雌の方が大きい。留鳥として北海道から九州までの各地に分布する。成鳥は背面が暗青灰色～暗灰褐色で、幼鳥は背面が褐色。鳥類のほか、ウサギやテンなどの哺乳類も捕食する。

【呉市における生息状況】

開発事業などともなう環境調査で、全国的には予想以上に多く繁殖していることが知られるようになった。広島県では全国的な分布調査が行われていないが、非公式ながら各地で繁殖情報がある。鳥類を捕食する生態系上位種なので個体数は多くないが、県内各地の比較的発達した二次林で繁殖していると考えられる。

【衰亡の要因とその対策】

生息に適した安定した里山環境の減少や森林の荒廃が進んでいる。

ハヤブサ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Falco peregrinus

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

全長42-49cmで、雌のほうが大きい。留鳥として北海道から九州の平地から山地の海岸、河口、河川、湖沼、農耕地などに生息する。成鳥は頭部が黒色で背面は青灰色で、幼鳥は背面が暗褐色。主に飛行している鳥類を足で蹴って仕留めたり、水面などに叩きつけて捕獲する。

【呉市における生息状況】

海岸や山地の断崖、岸壁の岩棚や横穴などで繁殖する。近年、市街地のビルの窓辺や、鉄塔の鉄骨など人工的な環境での営巣例も増えている。

【衰亡の要因とその対策】

海岸部の開発にともなって、営巣適地が減少する可能性がある。

海岸の営巣地では、釣り人などの意図しない巣への近が繁殖行動に影響を及ぼす可能性がある。市街地に生息する場合、カラスの増加によって、ヒナが捕食

される可能性が高まっている。



呉市野呂山 2006年3月17日（撮影：森山宏一）

クイナ

環境省 なし

Rallus aquaticus

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

全長約29cm。北海道や東北地方で繁殖し、それ以南の地方には冬鳥として渡来する。河川のアシ原、水田等の湿地耕地、湖沼等に生息する。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来するが個体数は少ない。県内の分布域は広く、多雪地域を除き、平地から低地にかけての河川中～下流域のアシ原、水田、休耕田等の湿性耕地、湖沼や湿地の草むら等に生息している。

河川工事、宅地造成、湿地開発、乾田化等の土地利用の変化で、生息地は消失または減少しており、それにもなると個体数も減少傾向が続いている。

【衰亡の要因とその対策】

生息地である河川のアシ原、休耕田、水田、湿地等は、河川工事、乾田化、宅地造成等の開発や土地利用の変化で、縮小している。



呉市郷原町黒瀬川 2008年12月27日（撮影：前西 聡）

イカルチドリ

Charadrius placidus

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧



呉市郷原町黒瀬川 2013年1月5日 (撮影: 前西 聡)

【種の概要】

全長21cm。留鳥として九州以北に分布する。砂礫地がある河川等に生息する。雌雄ほぼ同色。コチドリに似るが、嘴と足は長く、過眼線やアイリングは淡い。

【呉市における生息状況】

群れをつくらず少数が河川の川原等に生息するので、個体数が多い種類ではないが、近年その個体数は減少傾向にある。

【衰亡の要因とその対策】

河川の川岸、乾いた裸地環境などの消失にともなう繁殖適地の減少。

繁殖場所である川原への人の立ち入り。

カンムリウミスズメ

Synthliboramphus wumizusume

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 準絶滅危惧



呉市倉橋島沖 2006年8月31日 (撮影: 前西 聡)

【種の概要】

全長約24-26cm。留鳥として全国の海域に生息し、島嶼部で繁殖する。冬季は本州中部以南に多い。

【呉市における生息状況】

2002年2月に呉市倉橋島沖の瀬戸内海で確認され、その後の調査では大竹市白石から広島湾、呉湾、呉市大島下島に至る広い海域に生息していることがわかった。県内では呉市の海域が最も生息密度が高い。周年生息すると言われているが、夏季の個体数が最も多い。

【衰亡の要因とその対策】

レジャーボート等による人為的錯乱の危険性がある。

ヤマセミ

環境省 なし

Megaceryle lugubris

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

全長約38cm。日本産カワセミ類では最大。留鳥として北海道から九州に分布し、山地の谷や溪流、湖沼などに生息する。川沿いの枝に止まってダイビングし、魚類を捕食する。

【呉市における生息状況】

山間部を中心として県内全域に分布しており、主に河川中流域から上流域にかけて生息する。

近年、南部の河川や湖沼で観察されることは稀となった。

【衰亡の要因とその対策】

河川改修による林や竹藪の消失、河川沿いの新道建設、生息（繁殖）地である山間湖沼周辺の公園化と落石防護工事等による営巣地の崖地の減少等、生息地の縮小が著しい。



呉市郷原町黒瀬川 2003年12月21日（撮影：前西 聡）

マミジロ

環境省 なし

Zoothera sibirica

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

全長23cm。夏鳥として北海道から本州中部の平地から亜高山帯の針広混交林、落葉広葉樹林などに生息する。県内においては、ブナ林に少数が渡来し、繁殖する。昆虫やミミズ、木の実などを餌とする。西日本での繁殖個体数は少ない。

【呉市における生息状況】

県内では、まとまった面積のブナ林の大径木からなる森林に生息している。これまでのところ、県内では3ヶ所しか繁殖地が知られていない。

呉市においては、春と秋の渡り時期に見られる。

【衰亡の要因とその対策】

生息地であるブナ林のオーバーユースによる踏みつけや、台風や集中豪雨による衰退。

越冬地である東南アジア（カンボジア等）における熱帯雨林の伐採。



呉市灰ヶ峰公園 2008年5月4日（鳥類標識調査）

オシドリ

環境省 情報不足

Aix galericulata

広島県 準絶滅危惧



呉市郷原町 2017年1月27日 (撮影: 神垣健司)

【種の概要】

全長45cmで、留鳥または冬鳥。主に本州中部以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多い。森林の水辺で樹洞を使って繁殖し、山間の溪流を好み、湖沼、池、河川に生息する。県北部を中心に少数が繁殖している。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、各地のダム湖、河川、ため池などで確認できる。

【衰亡の要因とその対策】

河川改修による林や竹叢の消失、河川沿いの新道建設、越冬地である山間湖沼周辺の公園化と落石防護工事等による生息地の縮小が著しい。

ノスリ

環境省 なし

Buteo buteo

広島県 要注意種



呉市郷原町黒瀬川 2008年1月19日 (撮影: 前西 聡)

【種の概要】

全長50-60cmで、雌のほうが大きい。留鳥または冬鳥として渡来する。背面はやや暗褐色体下面は淡色～淡褐色で脇から下腹に褐色斑がある。秋冬には全国の平地にも出現するが、本州では主に近畿以東の山林で繁殖し、中国地方での繁殖は少ない。餌は主としてネズミであり、小型の鳥類やへびなども捕食する。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、低山や平地に生息する。また、春と秋の渡り時期にも観察される。

【衰亡の要因とその対策】

開発行為や森林伐採などによる営巢林の消失・縮小、餌場となる農地・草地の消失が懸念される。

管理が放棄された土地が増えてきており、狩場として利用している休耕田や草地の森林化が進めば、繁殖が困難になる可能性がある。

ハイタカ

環境省 準絶滅危惧

Accipiter nisus

広島県 要注意種

【種の概要】

全長30-40cmで、雌のほうが大きい。北海道から九州までみられるが、本州以北で繁殖し、西日本では冬鳥として渡来する個体が多い。主に小鳥類を捕食する。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、低地の林、農耕地、河川、湖沼などで見られる。

【衰亡の要因とその対策】

生息に適した里山環境の減少や森林の荒廃が進んでいる。



呉市音戸町 2018年1月2日 (撮影: 神垣健司)

イソシギ

環境省 なし

Actitis hypoleucos

広島県 要注意種

【種の概要】

全長20cm。中部地方以北に夏鳥として渡来し、その他では留鳥として分布する。河川、湖沼、水田、海岸、河口、干拓に生息する。

【呉市における生息状況】

普通に河川の上流部から下流部まで見られる。

【衰亡の要因とその対策】

湿地草原環境、繁殖適地の減少。



呉市郷原町黒瀬川 2013年9月13日 (撮影: 前西 聡)

アマツバメ

環境省 なし

Apus pacificus

広島県 要注意種



(撮影：前西 聡)

【種の概要】

全長20cm。夏鳥として九州以北の海岸部の岸壁から高山帯までの崖地に渡来し、岩場の割れ目などの隙間に営巣する。翼は細長く、飛翔時は鎌形で細い三日月形に見えることが多い。飛翔しながら空中の昆虫を捕食する。

【呉市における生息状況】

春と秋の渡り時期に観察される。県内においては、広島湾の白石灯台の岩礁が知られた繁殖地である。

【衰亡の要因とその対策】

生息地の環境が特殊で自然災害（地震等）にともなう沈下や消失。

シロハラ

環境省 なし

Turdus pallidus

広島県 要注意種



呉市灰ヶ峰公園 2007年2月13日

【種の概要】

全長24cm。冬鳥として西日本や南西諸島に多く渡来し、越冬する。ミミズや昆虫、木の実などを餌とする。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、平地から山地の林、市街地の公園などで観察される。県内においては、臥竜山や比婆山のブナ林で繁殖している。

【衰亡の要因とその対策】

生息地であるブナ林のオーバーユースによる踏みつけや、台風や集中豪雨による衰退。
生息地であるブナ林の温暖化による衰退。

ホオアカ

環境省 なし

Emberiza fucata

広島県 要注意種

【種の概要】

全長16cm。留鳥または漂鳥として北海道から九州までの平地から山地の草原、農耕地、干拓地などに生息する。頭部は灰色で黒い縦斑がある。頬は赤褐色で背面は茶色、体下面は白っぽい。主に植物の種子を餌としている。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、平地から山地の農耕地、草地、河川敷などで観察される。

【衰亡の要因とその対策】

河川改修、土地開発等による草地の変化があれば容易に生息地の消失につながる。



(撮影：神垣健司)

ミヤマホオジロ

環境省 なし

Emberiza elegans

広島県 要注意種

【種の概要】

全長16cm。冬鳥として全国に渡来するが局地的で、西日本に多く渡来し越冬する。平地から山地の林、林縁、農耕地、草地などに生息する。主に植物の種子を餌としている。

県内における繁殖地は、少数のものが臥竜山麓のハンノキ林で繁殖している。

【呉市における生息状況】

冬鳥として渡来し、平地から山地の林、林縁、農耕地などで観察される。

【衰亡の要因とその対策】

土地開発等による生息地の環境悪化。



呉市安浦町 2009年3月15日 (撮影：神垣健司)

クロジ

Emberiza variabilis

環境省 なし

広島県 要注意種



呉市野呂山 2007年12月10日 (撮影: 前西 聡)

【種の概要】

全長17cm。留鳥または漂鳥として北海道から本州中部の山地から亜高山帯の林などに生息する。本州中部以南では冬鳥として平地から山地の林、林縁、草地、河川敷などに生息する。

雄成鳥は全体が灰黒色で、雌は全体がシバフ色を帯びた褐色。

県内では、比婆山で繁殖が確認されている。

【呉市における生息状況】

春と秋の渡り時期に観察される。

【衰亡の要因とその対策】

比婆山の繁殖個体群の生息地は、林末にササ類が繁茂するブナ帯の狭い範囲に限られるため、生息環境の存続基盤が脆弱である。

タワヤモリ

Gekko tawaensis

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

ニホンヤモリと似るが、本種の背面には不規則に横断する4~5本の黒い帯がある。しかし、体色では区別はつかないことがあり、鱗を確認する必要がある。ニホンヤモリには所々に他の鱗よりも大きな鱗(大型鱗)があるのに対して本種では大型鱗はなく均一である。このような特徴はタワヤモリだけに見られ、日本産の他のヤモリにはない。また、尾の付け根にある側肛尤の数がニホンヤモリでは3つ以上であるのに対し本種では1つである。ニホンヤモリはかなり古い外来種であるのに対し、本種は日本固有種で、瀬戸内海と四国にしか分布していない。夏の始めに日当たりの良い岩の割れ目などに産卵し、9月頃に孵化する。冬季は産卵場所に近い岩の5-10mm程度の割れ目に潜み越冬する。夏季に越冬場所に隠れていることもある。



【呉市における生息状況】

呉市内では、焼山地区、倉橋地区、蒲刈地区の低山の岩場で確認されている。数十年以内に山火事のあった場所からは見つかっていない。おそらく山火事で絶えてしまい、他の場所からの拡散が困難であるためと思われる。まだ未調査の地域が多いが、本種が生息するような場所は道のない急な岩場が多く、行くのは非常に困難である。



呉市蒲刈町向 1996年2月13日

【衰亡の要因とその対策】

岩場の岩の割れ目を生活場所や産卵越冬場所に用いることが多く、整備のために吹き付け工事を行うといなくなる可能性がある。また、ニホンヤモリが人間の活動にともない分布域を広げている。それにともない、タワヤモリの生息場所へのニホンヤモリの侵入がみられる。すでに生息場所をニホンヤモリに奪われてしまったと思われる場所もある。

【特記事項】

早急に分布調査を行い生息状況を把握し、生息場所の確保をすることが必要である。



タワヤモリ生息地 (呉市蒲刈町)

ニホントカゲ

環境省 なし

Plestiodon japonicus

広島県 準絶滅危惧



呉市蒲刈町大浦 2012年7月1日 (撮影：神垣健司)

【種の概要】

日本固有種で西日本に分布する。全長200-250mmで尾は体長の半分より短い。全身つやのある鱗で覆われ、艶のないニホンカナヘビとは容易に区別が付く。成長するとオスもメスも褐色になるが、幼体の体には黒地に金色の3本の条線があり、尾は鮮やかな青色をしていてよく目立つ。成長につれて、色はあせてきて褐色になるが、メスの方が遅くまで幼体の色彩を残し、成長しても体の金色の条線を残すことがある。動物食で、ミミズ、クモ、コオロギ等の小動物をよく食べる。

【呉市における生息状況】

1970年代までは街中でもよく見かけたが、石垣のすき間がコンクリートで埋められたり石垣そのものがなくなったり、街中の畑がなくなり、数が減少した。それでも山間地や焼山などの団地の庭で目にするものも多い。

【衰亡の要因とその対策】

畑地の減少。石垣などの減少。

【特記事項】

近年(2012年)、近畿地方から東に生息するものはヒガシニホントカゲという別種に分けられた。ニホントカゲとヒガシニホントカゲの区別は形態的には困難であるが、両者は匂いで互いを区別しており、生殖的に隔離されているようである。



ニホンイシガメ

Mauremys japonica

環境省

準絶滅危惧

広島県

準絶滅危惧

【種の概要】

日本固有種で本州、四国、九州と周辺の島々に分布する。甲長は10-20cmほどで、雌のほうが大きい。背甲は黄褐色で腹甲は黒色。背甲は明瞭なキール（畝）がなく、後端はギザギザになっている。近縁種のクサガメには背甲に明瞭なキールがあり、後端は滑らかになっている。クサガメとの交雑は古くから知られており“ウンキュウ”と呼ばれ、双方の特徴をあわせ持った個体がみられ、繁殖能力を持っている個体もあるようだ。クサガメが水田などを中心に生息するのに対し、ニホンイシガメは河川の中上流域や、山中の溜池を中心として生息する。元々は水田などにも多かったのだが、クサガメの増加により追いやられた可能性もある。

【呉市における生息状況】

呉市内でニホンイシガメを捜すのはかなり困難である。かなり数を減らしているものと思われる。

【衰亡の要因とその対策】

クサガメの増加による生活場所の減少。河川改修による産卵場所の消失。水田の溝等のコンクリート化に

よる移動の妨害。生息状況の把握が急務である。また、ミシシッピーアカミミガメの増加も本種の生存の脅威となっている。

【特記事項】

ニホンイシガメは日本固有種だが、クサガメは江戸時代中期以降に中国から移入されたものと考えられている。



呉市灰ヶ峰 2014年7月15日 (撮影: 神垣健司)

タカチホヘビ

Achalina spinalis

環境省

なし

広島県

準絶滅危惧

【種の概要】

本州、四国、九州および中国東部に分布する。全長約300-600mm。頭は比較的小さく、眼も小さい。背面の鱗はビーズ玉のように一枚一枚が盛り上がり、重なり合うことがなく、乾燥に弱い。鱗には真珠光沢があり、虹色に見える。背面中央には1本の黒条があり、小さいときは暗黒紫褐色だが、成長につれて黄色みが増し、500mmを超えると黄褐色になる。腹面は黄色味の強い褐色で、尾の部分には黒斑を散布する。尾下板は単一で対をなさない点が他のヘビと大きく異なる。他に紛らわしいヘビはいない。行動は他のヘビのように敏捷でなく、ゆっくりと這うことが多い。ガレ場などの通気性の良い地中でミミズを餌として生活している。

【呉市における生息状況】

呉市内では惣付町で轢死体が採集されたのみである。本種の生息可能性のある場所は多く、今後発見される

可能性が高い。

【衰亡の要因とその対策】

生息場所が崖崩れをよく起こす地形のことが多く、こういう場所のコンクリート化は本種の生存に脅威である。



シロマダラ

Dinodon orientale

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧



呉市狩留賀町吉浦中学校 1983年11月10日

【種の概要】

日本固有種で、本州、四国、九州および周辺の島々に分布する。全長250-650mmで体はやや細い。白っぽい地色に体を横断する黒斑を60ほどもつ。地色がやや紫褐色を帯びるものもある。夜行性で、昼間は岩の隙間や物の下に隠れている。餌は爬虫類で、他のヘビやトカゲ、カナヘビをよく食べる。

【呉市における生息状況】

島嶼部や山間部にはまだ個体数は多いものと思われる。市街地に近い場所でも見かけることがある。

【衰亡の要因とその対策】

夜行性であるということから個体を見る機会も少なく、生息状況の十分な把握ができていない。そのため、今後の生息状況の調査が急務である。現時点では、生息に対してどのような脅威が存在するのかは不明。注意深く観察を続ける必要がある。

ニホンスッポン

Pelodiscus sinensis

環境省 情報不足

広島県 要注意種



呉市二河峡 2015年6月24日 (撮影：神垣健司)

【種の概要】

本州・四国・九州・沖縄島・西表島・与那国島などおよび、国外ではモンゴル・朝鮮半島・中国大陸・台湾・インドシナ北部に分布する。河川や池沼に生息する。背甲は平たく軟質の皮膚に覆われ角質の鱗板をもたない。吻端の鼻は長くつき出て、首がきわめて長い。噛みつく力は強力である。4-6月に交尾し、6-8月に産卵する。1回の産卵で10-50個の卵を産み、2-3ヶ月で孵化する。県内でも養殖が行われており、野外で見つかるものが在来のものか養殖個体が逃げ出したものかはわかりにくい。

【衰亡の要因とその対策】

河川改修による産卵場所の消失。生活場所である河川や池沼と産卵場所である陸地間の移動が、河川改修や池沼の護岸のコンクリート化などにより妨げられている。生息や繁殖の状況の把握が急務であるが難しい。

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus

環境省

絶滅危惧Ⅱ類

広島県

絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日本固有種で西日本に分布する。全長70-130mm。大きさや色は地域により差がある。標準的なものは基色が黄褐色で尾の上下に明瞭な黄条があるもので、九州から山口県、島根県、鳥取県を経て近畿まで分布する。それに対して尾の上下に黄条がなく、基色が黒褐色で地衣状斑を持つものに、「高地型」と呼ばれるものがあり、中国山地脊梁部を中心に分布する。広島県東部から岡山県南部、四国、兵庫県南部から和歌山県には、尾の上下に黄条がないが「高地型」とは異なる「瀬戸内型」が分布する。これらの3つのタイプの他に山口県阿武地方を中心に「阿武型」が、広島県三次盆地、西条盆地に「安芸型」が、旧高田郡・旧山県郡・旧双三郡のやや高原部には「移行型」が、旧芸北町から島根県石見地方には「石見型」が分布する。広島県内には「瀬戸内型」、「安芸型」、「石見型」、「移行型」が分布する。これらのタイプは同種としてまとめるのが困難なほどに異なっており、研究中である。

産卵時期は早いところでは12月下旬から、遅いところは5月上旬まで。湧き水のある湿地や緩い流れに、長さ100-300mmのコイル状またはバナナ状の、対になった卵囊の中に片方で10-100個の卵を産む。産卵時期以外は近くの山中で生活しているものと思われる。産卵時期以外の生態は不明である。

【呉市における生息状況】

呉市では郷原町下条に「安芸型」の市内での唯一の産地があったのだが、工業団地の造成により生息場所が失われている。周辺にも今のところ生息地は見つかっていない。戦後間もなく進駐軍により野呂山より採集されたカスミサンショウウオの卵と思われる標本がスミソニアン博物館に所蔵されているという情報を得たが、確認できていない。郷原町に生息していたことから、かつては野呂山高原部の湿原や、灰ヶ峰山頂付近の湿原にも生息していた可能性があるが、今となってはわからない。

【衰亡の要因とその対策】

もともと生息場所における個体群が小さく、かつ「安芸型」の産卵場所に対する保守性は極めて大きく、産卵場所周辺の小さな改変により繁殖が妨げられ個体群が消失してしまう。各地においても圃場整備や造成工事などによって生息場所が失われたケースが多い。

【特記事項】

今後の研究によりカスミサンショウウオはいくつかの種に分かれる可能性がある。



呉市郷原町 1992年2月6日



呉市郷原町 1991年4月4日

オオサンショウウオ

Andrias japonicus

環境省

絶滅危惧Ⅱ類

広島県

絶滅危惧Ⅱ類



(撮影：神垣健司)



【種の概要】

日本固有種で岐阜県以西の本州に生息する。大分県、四国からも捕獲されているが、自然分布かどうか不明。体長は600-800mm、大きいものは1,500mmに達するものもいた。寿命は長く、大型のものはまだ環境の良かった数十年前に生まれたものと思われる。体の基色は黄褐色から茶褐色で、黒い斑紋がある。全身を小さなイボに覆われ、目はそのイボくらいの大きさである。口は大きく、水流とともに魚などを一呑みにする。肺呼吸をするが、ほとんど水中で生活し、移動に伴ってまれに陸上にも上がることもある。8月終わりくらいから繁殖のために川を遡上するのが見られる。雄は川岸にあいた深さ1m以上の、湧き水のある横穴を巣穴にし、巣穴を中心になわばりをつくる。なわばりの主は巣穴に雌を誘い込み、産卵はその中で行われ、産卵後は雄が卵を守る。

【呉市における生息状況】

呉市内においては1980年代までは黒瀬川の支流(長谷川)や二河川の上流で体長が800mmを超える個体が見つかったこともあるが、1990年代以降は見つかったと聞くことを聞かない。

【衰亡の要因とその対策】

二河川上流(焼山地区)では、河川改修が行われ、ほとんどの部分が平瀬になった。そのためオオサンショウウオの生育環境は失われたものと思われる。黒瀬川の支流(長谷川)は工業団地造成に伴う河川改修により、コンクリート三面張りに改変され、生息できる環境でなくなった。

【特記事項】

種指定の国の特別天然記念物

ニホンヒキガエル

環境省 なし

Bufo japonicus japonicus

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日本固有種で、西日本の本州、四国、九州に分布する。頭胴長は80～150mm。背面は黄褐色から茶褐色で、全体にイボがあり、このイボからブフォトキシンを含む毒液を出す。鼓膜の上部に耳腺があり、ここからも毒液を出す。腹面の基色は白で黒い不規則な斑紋がある。繁殖期は2月から3月で、長さ数cm以上にも及ぶ紐状の卵囊の中に8,000-12,000個の卵を産む。オタマジャクシは全身真っ黒で緩やかに泳ぐ。変態後の幼体は小さく弱々しく、10mmに満たない。

【呉市における生息状況】

1950年代までは街中に普通に見られたが、近年急速に数を減らし、見かけることはまれである。灰ヶ峰・野呂山の山中、蒲刈島・倉橋島などの島嶼部にわずかに残るのみである。

【衰亡の要因とその対策】

特にこれといった減少の原因は不明であるが、産卵

に適した水場や幼体の生育する環境が失われたものと考えられる。現時点での繁殖状況を把握し、繁殖場所周辺の環境の保全をはかることが急務である。

**アカハライモリ**

環境省 準絶滅危惧

Cynops pyrrhogaster

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

日本固有種で、本州・四国・九州と周辺の離島に分布する。全長80-130mm程度で、背面は黒褐色、腹面は赤またはオレンジ色で不規則な黒色斑紋がある。個体によっては背面が茶褐色のものもある。腹面の黒斑は全くないものから黒斑の多いものまで変異が多い。繁殖期には雄は紫がかかった婚姻色を呈する。

【呉市における生息状況】

かつては水のある場所であればほとんどの場所で見られたが、そのような場所が少なくなった。今のところ水田周辺などに良く見られるが、環境の変化でどのようなようになるかはわからない。

【衰亡の要因とその対策】

水田の乾田化や湿地の消失。

【特記事項】

フグ毒に似た毒をもち、食べると中毒する。



(撮影：神垣健司)

ブチサンショウウオ

Hynobius naevius

環境省 準絶滅危惧

広島県 準絶滅危惧



呉市灰ヶ峰 2001年7月22日 (撮影：神垣健司)



呉市郷原町大積 1986年11月13日

【種の概要】

日本固有種で西日本の本州と九州に分布する。成体の全長は110-150mm。背面はナス紺色の地色に銀白色の地衣状斑がある。腹面はやや薄い地色だが背面同様に地衣状斑がある。尾は側扁が弱く、断面が楕円形である。産卵時期は4月中旬から5月にかけてで、伏流水の中や源流部の石の下にバナナ状の卵嚢を1対産卵する。卵嚢中の卵は片卵で数個から10個で白っぽく大きい。幼生は7月から8月に産卵場所の近くの溪流に見られる。体長は40mm前後で、場所にもよるが8月中旬までに変態して上陸する場合が多い。

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰や大積山の400-600mにある湧き水や溪流に幼生がみられるが、近年その数が減少した。野呂山でも西斜面の中腹の溪流で確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

今のところ絶滅につながる危急な要素はないが、近年源流部や溪流の水量が減少傾向にある。今後産卵、幼生の生育に必要な環境が悪化していくのではないかと危惧される。源流部の水源の確保、環境の保全が必要である。産卵場所よりも高い場所の舗装工事などは水量の減少につながり、生存の脅威となる。

【特記事項】

大積地区のブチサンショウウオは呉市の天然記念物に指定されている。九州北部や四国に分布するものは近年コガタブチサンショウウオとして記載された。

トノサマガエル

環境省 準絶滅危惧

Pelophylax nigromaculata

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

本州、四国、九州と朝鮮半島、中国に分布する。関東から仙台まではいない。頭胴長は40-80mmで、雌のほうが大きい。日本産のカエル類では唯一、体色・斑紋の違いで雌雄の判断のできるカエルである。雌は白～灰色の地に黒斑が不規則に並ぶ。雄は褐色の地に黄緑色に色づき、特に繁殖期は顕著になる。ほとんどの個体には明瞭な背中線がみられる。繁殖期は4月下旬から5月で、おもに水田を中心に産卵する。幼生は大きくなり60mmを超える。幼生の時期から背中線が明瞭である。

【呉市における生息状況】

一時減少傾向にあったが、近年は安定しているようだ。場所によっては多数の個体がみられることがある。

【衰亡の要因とその対策】

水田が乾田化すると個体数は激減する可能性がある。強い農薬の使用も生存には脅威となる。



呉市灰ヶ峰 2012年9月2日 (撮影：神垣健司)

ニホンアカガエル

環境省 なし

Rana japonica

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

本州、四国、九州と周辺の離島におよび中国に分布する。体長は40-70mm。雌の方が大きい。体色は褐色で斑紋はない。背側線は眼までまっすぐである。繁殖期は1月終わりから3月にかけてで、ヤマアカガエルとともにカエル類で最も早い。平地や丘陵部のいわゆる里山の池や水田の水溜りに産卵する。卵塊やオタマジャクシはヤマアカガエルに似るが、本種のオタマジャクシの背中には黒点が二つあるので区別がつく。

【呉市における生息状況】

呉市内ではやや山よりの地域にみられる。現時点ではまだ容易に見ることができる。しかし、生息場所が開発されやすい里山であるため、注意深く見守る必要がある。

【衰亡の要因とその対策】

湿地や池の埋め立てによる産卵場所の消失。圃場整備による水田の乾田化等により数を減らしている。



オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe

環境省 絶滅危惧 I A 類

広島県 絶滅



呉市栢原町 1965年6月21日



呉市灰ヶ峰 1962年7月22日

【種の概要】

本州中部以西・四国・九州に分布していたが、現在ではほとんどの地域で姿を消している。前翅長38mm前後、日本産ヒョウモンチョウ類では最も大型種である。成虫は年1回6月上旬から7月にかけて発生し、盛夏にはいったん活動性を低下させて夏眠した後、気温が下がる秋に再び姿を見せて産卵する。幼虫はスミレ類を食べ、特にマスマシレやノジスミレなどの無茎種を好むといわれている。

【呉市における生息状況】

1960年代までは灰ヶ峰周辺や広長浜などで採集記録があるが、当時から個体数は少ない種であった。1970年代以降、市内では全く生息が確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

戦後しばらくは小規模な草原でも発生していたが、やがて規模の大きな草原のみで発生するようになり、現在では山口県秋吉台や九州の火山性草原、自衛隊演習場などの極めて限られた場所でしか生息していない。その原因としては本種が好むシバ草原の減少とされているが、現在でもかつてのシバ草原は多く残っており、本種が姿を消した直接の要因はよくわかっていない。今後、呉市において本種が再び発生することはないと考えている。



コバネアオイトトンボ

Lestes japonicus

環境省 絶滅危惧ⅠB類

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

北海道から九州にかけて分布する。全長40mm前後、同属のアオイトトンボ、オオアオイトトンボとよく似ているが、胸部の金緑色部分の形で区別できる。また雌の産卵管は他の2種よりかなり小さい。成虫の出現期は8-10月、平地から丘陵地の水生植物の多い浅めの溜め池に生息している。

【呉市における生息状況】

郷原町の溜め池で古い記録があるが、近年における市内の生息は確認されていない。現在でも黒瀬町では生息が確認されていることから、郷原町にはまだ生息している可能性もある。

【衰亡の要因とその対策】

本種の雌は産卵管が小さく、産卵はクログワイやホタルイなどの茎の柔らかい抽水植物にするため、こうした植物が自生していなければ繁殖が困難である。しかし近年こうした抽水植物が自生する溜め池は減少しており、抽水植物を含めた保護が必要である。



ハネビロエゾトンボ

Somatochlora clavata

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

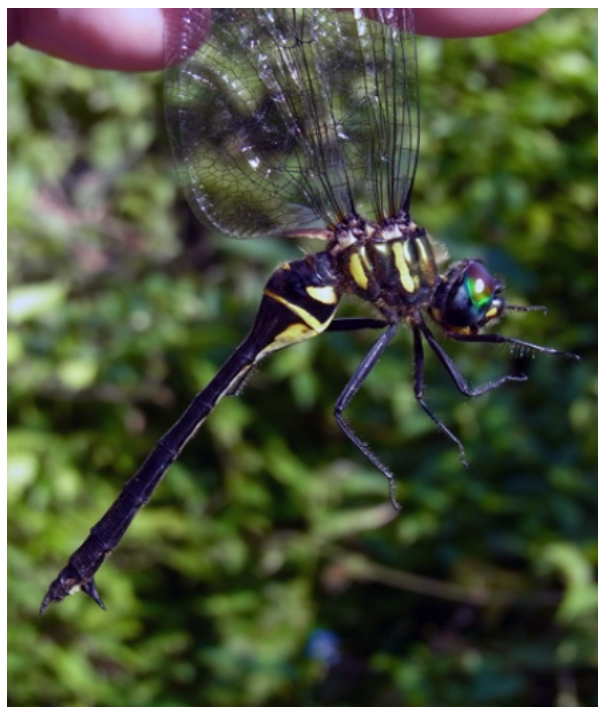
日本特産種であり、北海道・本州・四国・九州に分布する。体長65mm前後で、エゾトンボ属の中では最も大型種である。体色は金属光沢のある暗緑色で、雄は尾部先端の付属器の形、雌は同属他種より長い産卵弁で区別できる。幼虫は、水のきれいな丘陵地の細流や湿地に生息している。成虫の出現期は6月下旬から10月上旬である。

【呉市における生息状況】

2011年に呉市焼山で採集記録があるが、それ以外の記録はない。タカネトンボやエゾトンボに形態が類似しているため、これらと混同されていた可能性もある。

【衰亡の要因とその対策】

生息地が局地的であることに加え、生息地周辺の開発が進んでいることが衰亡の要因を考えられる。なお、呉市における本種の生息地はまだよくわかっていないため、現時点では生息地の確認が先決である。



呉市焼山町 2011年7月29日

カワラバッタ

環境省 なし

Eusphingonotus japonicus

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長25-43mm。体色は濃淡のある灰青色。後翅基部は鮮やかな青色を呈し、その外縁は太い褐色帯に縁どられる。

生息環境：河川中・下流域の、堆積した川砂の上に大小の転石が散在する川原。

分布：日本固有種で、国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では安芸太田町、広島市、廿日市市、大竹市で記録がある。

【呉市における生息状況】

二河川での記録のみ。それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

タガメ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Lethocerus deyrollei

広島県 絶滅危惧Ⅰ類



「昆虫の家 頑愚庵（呉市下蒲刈町）」所蔵標本

【種の概要】

形態：体長48-65mm。体は長円形で扁平、体色は黄

褐色で前脚は太く捕獲脚となる。

生息環境：主にため池や水田等の止水域に生息し、水田から水がなくなる秋には河川や水路などの緩流域も利用する。冬には、水際やその近くの林床の落ち葉下などで越冬する。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では廿日市市のみが生息している。

【呉市における生息状況】

二河川での記録のみ。それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

イトアメンボ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Hydrometra albolineata

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長11.2-14.0mm。体形は非常に細長く棒状で、複眼は長い頭部の中間より後方につく。通常短翅型であるが、稀に長翅型も出現する。同属他種とは、雄の第7腹板に長毛を密生することで区別できる。

生息環境：湿地や湖沼（ため池）、河川の緩流域、水田等に生息する。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内

は三次市の記録が最後である。

【呉市における生息状況】

草里町での記録のみ。それ以外は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

コガタノゲンゴロウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Cybister tripunctatus

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長24-29mm。体形は厚みのある卵形。背面は暗緑色～暗褐色で、上翅と前胸背板の側縁、頭楯は淡黄色に縁取られる。ゲンゴロウより小型。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の堀割。

分布：国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では広島市、三原市、大竹市に記録があるが

現在では確認されていない。

【呉市における生息状況】

1995年に片山町の記録のみ、それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

ゲンゴロウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Cybister japonicus

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長36-39mm。体形は厚みのある卵形。背面は暗緑色～暗褐色で、上翅と前胸背板の側縁、頭楯は淡黄色に縁取られる。腹面は黄褐色となる。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や水田周辺の堀割。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では庄原市、北広島町に生息している。

【呉市における生息状況】

音戸町藤脇・倉橋町大迫と西本通りの古い記録のみ。それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。



(撮影：神垣健司)

ヤマトオサムシダマシ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Blaps japonensis

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長22mm前後。

生息環境：古い納屋や木造住宅の床下という特殊な環境に生息している。広島県では1例の記録のみ。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市の記録のみ。

【呉市における生息状況】

広石内

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。



「昆虫の家 頑愚庵（呉市下蒲刈町）」所蔵標本

アサカミキリ

Thyestilla gebleri

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

形態：体長10-15mm。

生息環境：アサを主な食草にしていた。

分布：国内では本州(福島県以南)、隠岐、四国、九州に分布し、県内ではほとんど記録はない。

【呉市における生息状況】

旧呉市

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

シルビアシジミ本土亜種

Zizina otis emelina

環境省 絶滅危惧ⅠB類

広島県 絶滅危惧Ⅰ類



【種の概要】

本種は本州・四国・九州・南西諸島に分布し、本土亜種は本州・四国・九州に産する個体群である。シジミチョウ科の小型種で前翅長は10mm前後、平地から山地にかけて広く分布する。雄の翅表は紫を帯びた青藍色、雌の翅表は暗褐色で、春・秋に発生する雌の前翅の基部に青藍色斑がある。本土亜種の成虫出現期は4-11月で、発生回数は年4回程度である。生息地は草原や河川敷・空き地などで、幼虫はミヤコグサやコマツナギ・シロツメクサなどを食べる。

【呉市における生息状況】

1958-63年に灰ヶ峰の山頂草原で数例の採集記録があるのみである。呉市では少数の採集記録であるだけ、本種の採集から相当の年月が経過しているなどから、現在も呉市で生息している可能性はないと考えている。

【衰亡の要因とその対策】

食草のミヤコグサが生えるような草地在減少したことが衰亡の原因と考えられていた。しかし近年は帰化植物のセイヨウミヤコグサが繁茂するようになり、本種はセイヨウミヤコグサも食草とすることから、単に食草がなくなったことだけが衰亡の原因ではないかもしれない。

ヒョウモンモドキ

環境省 絶滅危惧ⅠA類

Melitaea scotosia

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

本州のみに限られ関東・中部地方及び中国地方の局限された地域に分布していたが、ほぼすべての地域で姿を消し、現在も生息しているのは広島県世羅台地南部の極めた限られた地域のみである。前翅長30mm前後、翅の地色は橙黄色で、前後翅ともに黒斑を散布する。後翅裏面は黄白色で、橙黄色から白色の斑紋を散布する。山地や丘陵地の湿性草地や湿地に生息し、幼虫はキセルアザミ、タムラソウなどを食べる。年1化、成虫の出現期は6-8月である。

【呉市における生息状況】

1960年代までは天志や上惣付、安浦町安登、郷原で採集記録があるが、その後は全く生息が確認されていない。

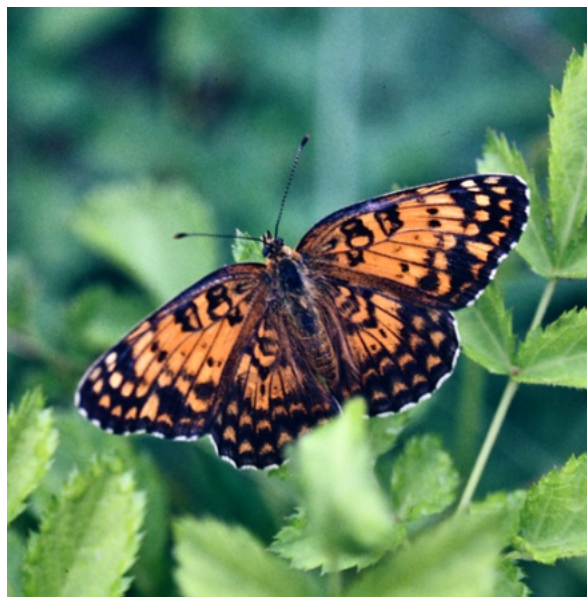
【衰亡の要因とその対策】

湿地の開発による消滅、または乾燥化による植生遷移により、生息環境が悪化したことが要因と考えられる。しかし世羅台地ではほぼ環境に変化がない場所でも姿を消すなど、衰亡の原因は単に環境変化だけでは

ないかもしれない。現在、生息地では人工飼育による繁殖・保護が行われている。

【特記事項】

平成23年に種の保存法に基づく希少野生動植物種に指定された。



ミヤマサナエ

環境省 なし

Anisogomphus maacki

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

本州・四国・九州に分布し、産地は限定される。体長60mm前後、腹部先端が平たく広がる。幼虫は、河川の緩やかな流れの砂泥底に潜って生活している。羽化は6月中旬頃から行われ、未熟個体は標高の高い山の尾根筋や山頂付近の低い植物の葉上で見られる。秋に成熟すると、河川の中流域に戻って繁殖活動を行う。

【呉市における生息状況】

かつては二河川の中流域で多数の幼虫が採集されたが、近年は生息が確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

河川改修がよく行われている中流域は本種の生息に適したエリアであり、こうした改修によって本種の生息環境が失われている。河川の改修には生態系に配慮した工法等が必要であると考えている。



ネアカヨシヤンマ

環境省 準絶滅危惧

Aeschnophlebia anisoptera

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市広白石 2000年7月25日

【種の概要】

本州（新潟県以南）・四国・九州に分布するが、いずれの生息地も局地的である。体長は80mm前後の大型

のヤンマで、腹部にくびれた部分がない体型で 翅の基部に橙色斑があり、それが和名の由来となっている。幼虫は平地や丘陵地のヨシなどの背の高い挺水植物が繁茂する池に生息する。成虫は黄昏飛翔生があり、昼間は林内の枝にぶら下がっていることが多い。産卵は湿地の湿った土や朽ち木に行われる。成虫の出現期は5月中旬から9月中旬である。

【呉市における生息状況】

広白石の住宅に囲まれた一角に小さな沼地があり、ここが本種の多産地であった。しかし15年ほど前に、住宅団地造成のため沼地は消失した。その他に音戸町畑や仁方大歳町、広白岳で生息が確認されており、音戸町畑では現在も安定して発生している。

【衰亡の要因とその対策】

本種の生息に適した豊かな自然環境の溜め池も開発により失われており、個体数も少なくなっており、平地の自然環境の豊かな溜め池を保全する必要がある。

キイロヤマトンボ

環境省 準絶滅危惧

Macromia daimoji

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市郷原町 2008年8月15日

【種の概要】

福島県以南の本州と九州に分布する。生息地はかなり局地的で、個体数も少ない。体長は75mm前後、金属光沢のある黒緑色に黄色の斑紋のある大型のトンボである。幼虫は河川中流域の水のきれいな砂底に生息し、体が隠れるよう砂に浅く潜っている。成虫の出現期は5月下旬～8月で、未熟期は林縁などの空間で摂食飛翔を行う。成熟すると雄は川の中ほどでパトロール飛翔を行い、雌は水面上をすばやく飛びながら間歇打水産卵をする。

【呉市における生息状況】

かつては郷原市民センター前の黒瀬川で幼虫が多数確認されていたが、近年は河川改修やブラックバスなどの増加により、幼虫がほとんど確認できなくなった。

【衰亡の要因とその対策】

個体数が少ない種の上、河川の改修や農薬による水質汚染、外来魚の増加などが衰亡の要因と考えられる。河川に改修には、生態系の配慮が求められる。

ハッチョウトンボ

環境省 なし

Nannophya pygmaea

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

本州・四国・九州に分布し、離島には生息しない。体長15mm前後、世界的にも最も小さいトンボのなかまに属している。雄は成熟すると赤くなるが、雌は黄色と褐色である。平地から山地の日当たりのよい湿地に生息し、羽化後も羽化水域をあまり離れない。成虫の出現期は5月下旬から8月下旬である。

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰や野呂山、昭和地区など、呉市北部の湿地に少数が生息している。特異な例として、呉市中央4丁目の呉市役所本庁舎で確認されたこともある。

【衰亡の要因とその対策】

生息地の湿地が開発による消滅や乾燥化によって草地に変わるなどの環境変化が著しく、それに伴って本種は減少傾向にある。本種の保護は湿地の保全に尽きる。



呉市郷原町 2004年6月12日

ナニワトンボ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Sympetrum gracile

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日本特産種で、近畿・中国地方と四国の一部のみに生息する。体長は35mm前後の小型のアカネ属（赤とんぼ）で、雄は成熟すると全身が青色になるため、「青い赤とんぼ」として知られている。幼虫は、近くに森林のある水際になだらかな土の部分があるような、挺水植物が茂る浅い池や沼に生息する。成虫の出現期は年1回、6月中旬から11月上旬である。

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰、郷原町、音戸町、蒲刈町などで確認されており、現在も多くの地域で発生を続けている。しかし環境の変化によって、発生していた溜め池から姿を消したケースも多い。

【衰亡の要因とその対策】

生息に適する池沼が開発により減少、特に溜め池の護岸改修によりコンクリート壁に変更されると、溜め池に浅瀬の部分なくなり、本種は生息ができなくなる。溜め池の改修時には生態系への配慮が必要である。



呉市蒲刈町 2000年10月1日

シロウミアメンボ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Halobates matsumurai

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



(撮影：神垣健司)

【種の概要】

形態：体長5.5-6.0mm。体形はピロート状の灰白色～灰色。ウミアメンボに似るが、前脚跗節の第1節が第2節より長いことで区別できる。

生息環境：沿岸性で、波のほとんどない河口域や内湾の入り江に生息する。

分布：国内では本州(三重県、広島県)、九州(佐賀県、長崎県)に分布し、県内では呉市、東広島市、廿日市市で記録がある。

【呉市における生息状況】

倉橋町(長谷、寒那)、下蒲刈町で記録があるが、未調査の島嶼もあるので詳細は不明。

ルイスハンミョウ

環境省 絶滅危惧ⅠB類

Cicindela lewisi

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

形態：体長15-18mm。海浜性のハンミョウで黒色。上翅には目立つ白黄色の曲玉模様があり、ニワハンミョウなどと区別できる。

生息環境：河口の砂泥質海岸に生息が局限される。

分布：国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では宮島のみで生息する。

【呉市における生息状況】

1935年に天志での記録のみ。それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

シャープツブゲンゴロウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Laccophilus sharpi

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

形態：体長3.5-4.2mm。体形はやや細長い卵形。背面は淡黄褐色で、上翅は波状の暗褐色の縦条斑に覆われる。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕田。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では倉橋島と江田島に産地があったが減少傾向。

【呉市における生息状況】

音戸町藤脇、音戸町畑、安浦町野呂川ダムでの記録のみ。それ以降は記録がない。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

クロモンマグソコガネ

環境省 準絶滅危惧

Aphodius variabilis

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

形態：体長4.9-7.3mm。光沢のある黒色で、前胸背側縁は黄褐色。上翅は黄褐色の地に黒紋をもつ。

生息環境：里山環境や河川堤防などの草地の獣糞。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、県内では呉市の記録のみが知られている。

【呉市における生息状況】

旧呉市と野呂山で古い記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

生息環境の減少と悪化。

ウラナミアカシジミ

環境省 なし

Japonica saepestriata

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

北海道・本州・四国に分布し、深山よりも人家に近い里山を主な生息地としている。前翅長20mm前後、翅裏は薄いオレンジ地に黒点をちりばめたような特徴ある斑紋を持つシジミチョウである。食樹はブナ科植物のクヌギ・アベマキ・コナラ・ナラガシワなど、成虫の出現期は年1回、6-7月である。

【呉市における生息状況】

市北部の山麓を中心に分布しているが、最近では灰ヶ峰や野呂山などで稀に確認できる程度になっている。なお、島嶼部には分布していない。

【衰亡の要因とその対策】

生息地である雑木林の喪失や手入れ不足による荒廃が衰亡の要因である。本種は若木の食樹を好む傾向が強いため、保護のためには、雑木林を適切に伐採更新することにより、雑木林の生態系を維持する必要がある。



ヒメヒカゲ本州西部亜種

環境省 絶滅危惧ⅠB類

Coenonympha oedippus arothius

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



亜種と分類している。前翅長20mm前後、前後翅ともに翅表は黒褐色、裏面は茶褐色で亜外縁部に眼状紋列を表す。成虫の出現期は年1回、6-7月である。生息地は湿性草地と高標高地の乾性草地が知られている。幼虫は主にカヤツリグサ科のスケ類を食草としているが、イネ科も利用することがある。

【呉市における生息状況】

1970年代までは灰ヶ峰中腹にある湿地（大積湿地）に生息していたが、1980年代には姿を消した。現在、東広島市にはいくつか生息地があるが、呉市では生息が確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

生息地となる湿地や草原は、放置しておけば遷移が進行していくため、人間による適切な湿地・草原の維持管理が重要だと考えている。また愛好家に人気の高い種であることから、採集圧にも配慮が必要である。

【種の概要】

本種は本州の群馬県から中部地方を経て中国地方に分布し、そのうち西日本に生息する個体群を本州西部

キマダラモドキ

環境省 準絶滅危惧

Kirinia fentoni

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



茶褐色で翅裏面は亜外縁部に眼状紋列をもつ。クヌギやカシワ等の雑木林の周辺や疎林的な環境に好んで生息する。成虫は年1回、6-7月にかけて発生する。そのうち低標高地の個体群は雌が夏眠して、秋に再び姿を見せて産卵する。幼虫は各種のイネ科・カヤツリグサ科植物を食草としている。

【呉市における生息状況】

かつては広町南部の広白岳山・螺山周辺と灰ヶ峰のみに産すると考えられていたが、その後の調査によって島嶼部の下蒲刈島・上蒲刈島・豊島や本土側でも広く生息することがわかってきた。

【衰亡の要因とその対策】

本種の生息域である雑木林は人為による環境変化を受けやすく、これが衰亡の主要因と考えられる。しかし近年、呉市周辺の本種は分布拡大傾向にあり、従来は記録のなかった休山西麓や東広島市でも生息が確認されている。そのため呉市の本種は保護が必要な状態ではないと考えている。

【種の概要】

北海道・本州・四国・九州に分布しているが、生息地は局地的で分断されている。前翅長は35mm、翅表は

呉市蒲刈町 2012年7月1日

ウラナミジャノメ本土亜種

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Ypthima multistriata nipponica

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

西日本の配置から低山地にかけて分布し、草地・湿地・河川敷・田畑の周辺・雑木林の林縁などに局地的に生息している。前翅長25mm前後、近縁のヒメウラナミジャノメとは後翅裏面の眼状紋の数で区別できる。成虫の出現期は年2回、6月と9月で、幼虫の食草はイネ科のカヤツリグサなどである。

【呉市における生息状況】

1970年代までは灰ヶ峰周辺でも確認されていたが、その後は呉市の本土側では記録がない。島嶼部については蒲刈町（上蒲刈島）で生息が確認されており、現在も少数ながら発生が続いている。

【衰亡の要因とその対策】

かつての灰ヶ峰などの生息地は目立った環境変化はなく、姿を消した原因はよくわかっていない。また蒲刈町の生息地は畑の周辺であり、近年は畑の放置による荒廃のため、個体数が減少傾向である。今後は畑の

周辺の維持管理を適宜行い、本種の生息地が藪状にならないよう配慮する必要がある。



呉市蒲刈町 2012年7月1日

アオハダトンボ

環境省 準絶滅危惧

Calopteryx japonica

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

青森県から鹿児島県にかけての本州と九州に分布するが、四国からは記録がない。全長60mm前後、全身が鮮やかな黄緑色の美しいヤンマである。ハグロトンボによく似ているが、本種の雄は翅にも金緑色の光沢があり、大変美しい。また雌の翅には白いスポットがある。

平地や丘陵地の水生植物が繁茂する清流に生息し、成虫の出現期は5月上旬から7月末にかけてである。

【呉市における生息状況】

かつては郷原町を含む賀茂台地南部に少数が生息していたが、近年は生息が確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

河川の改修や水質汚染などにより、本種が生息できる環境が減っている。河川改修する際には、そこに生息する生物への配慮が求められる。



ゲンバイトンボ

環境省 準絶滅危惧

Platycnemis foliacea sasakii

広島県 準絶滅危惧



【種の概要】

本州・四国・九州に分布し、いずれの地域でも生息地は局地的である。体長は30mm前後で、小型種のイトトンボ類に近いモノサシトンボの仲間である。雄の中・後脚の頸節は白色で軍配状に広がる特異な形をしている。幼虫は丘陵地の湧き水にこがある緩やかな清流などに生息し、成虫の出現期は5-8月である。

【呉市における生息状況】

仁方町の小さな溜め池で生息が確認されたが、その後姿を消している。黒瀬川・二河川・野呂川には生息していないことから、現在では呉市での生息は確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

本種の生息には流れの緩やかな清流が必要であり、河川の改修や水質汚染により消滅する生息地が増えている。そのため本種の保護には生息環境の保全が最も重要である。

ムスジイトンボ

環境省 なし

Paracercion melanotum

広島県 準絶滅危惧



【種の概要】

本州・四国・九州・南西諸島に広く分布し、クロイトトンボ属では最も暖地に分布している種である。体長は30mm前後、成熟した雄の体色は明るい青色で、雌の体色は黄緑色である。成虫の出現期は5-10月、生息地は平地のヨシやガマなどの抽水植物が繁茂する池沼や湿地・休耕田などで、汽水域にも好んで生息する。

【呉市における生息状況】

安浦町の汽水域にある用水路に生息している。その他の地域では確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

生息環境の悪化とともに、外来魚による捕食なども衰亡の要因とされている。呉市の生息地は人的な影響を受けやすい場所であるため、用水路の改修等には配慮が必要である。

呉市安浦町日之浦 2000年9月2日

ムカシヤンマ

環境省 なし

Tanypteryx pryeri

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

日本特産種で、本州及び九州に分布する。体長70mm前後の大型種で、体色は黒地に黄色い斑紋が反復されている。幼虫は山地の湿地や斜面の水がしたたり落ちるような場所で、コケなどの間に穴を掘って生活している。成虫は道路上や・木の幹・大きな岩の上・建物の壁などでとまっていることが多い。成虫の出現期はおもに5月上旬から6月下旬であるが、稀には盛夏まで生き残る個体もいる。

【呉市における生息状況】

郷原・栃原・天志で生息が確認されており、現在も呉市北部に広く分布していると思われる。

【衰亡の要因とその対策】

湿地の開発や湿地周辺の森林伐採により、生息環境の消失や悪化が衰亡の要因と考えられる。



キイロサナエ

環境省 準絶滅危惧

Asiagomphus pryeri

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

本州・四国・九州に分布する。体長は65mm前後、体色は雌雄ともに黄色地に黒の条斑がある。胸部の黒条は細く、第1側縫線の黒条は途切れる傾向がありこの傾向は雌において顕著である。平地から丘陵地の河川や水田横の水路などに生息し、成虫の出現期は5月上旬～8月下旬である。同属のヤマサナエよりも泥深い場所を好む。

【呉市における生息状況】

かつては郷原市民センター前の黒瀬川に多数生息していたが、河川改修のため姿を消した。近年、黒瀬川を含む呉市域では生息が確認できていない。

【衰亡の要因とその対策】

里山の河川や水田横の水路などの改修により減少しているため、改修には水生生物に配慮した工法をとる必要がある。



呉市郷原町 2000年6月16日

サラサヤンマ

環境省 なし

Sarasaechna pryeri

広島県 準絶滅危惧



【種の概要】

北海道・本州・四国・九州に分布し、分布の南限は屋久島である。体長65mm前後と小型のヤンマで、腹部の黄翅は更紗模様になっている。他のヤンマ類とは違って複眼の頂点の部分が短く接し、原始的な特徴を持つとされている。生息地は丘陵地や低山地の木立のある湿地などで、成虫の出現期は4-7月である。雄は湿地周辺の小空間を、地上1mほどの高さでホバリングを交えてパトロール飛行する。雌は単独で湿土や朽ち木などに産卵する。

【呉市における生息状況】

これまで郷原・焼山北・下蒲刈・音戸の湿地で確認されているが、いずれの地でも個体数は少ない。

【衰亡の要因とその対策】

生息地である湿地の開発や環境変化により個体数が減少傾向にある。今後は湿地とその周辺の環境を保全する必要がある。

アオヤンマ

環境省 準絶滅危惧

Aeschnophlebia longistigma

広島県 準絶滅危惧



呉市音戸町畑 2014年7月25日

【種の概要】

北海道から九州にかけて分布する。全長70mm前後、全身が鮮やかな黄緑色の美しいヤンマである。挺水植物が繁茂する池沼やクリークに生息し、成虫の出現期は5-8月である。日中、成熟した雄はヨシ原の間を縫うように縄張り飛行し、交尾はヨシ原内や林縁の小枝などで行う。雌は単独でヨシなどの挺水植物の茎に産卵する。

【呉市における生息状況】

島嶼部を含むヨシ原に広く分布し、音戸町畑では比較的個体数も多い。

【衰亡の要因とその対策】

挺水植物が繁茂する池沼の埋め立てにより、多くの生息地が失われた。呉市では広白石に本種が多産する小さな沼と湿地があったが、すべて埋め立てられて住宅団地になった。本種の保護には、挺水植物が繁茂する池沼を保全する必要がある。

ナギサスズ

環境省 なし

Caconemobius sazanami

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長9.9-10.3mm。体色は光沢のある暗褐色～暗赤褐色。雌雄とも無翅。別名ウミコオロギ。

生息環境：転石が多い海岸や海食崖。石積みの岸壁などにも生息する。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では近年、広島市の峠島、呉市(倉橋町で確認された)。

【呉市における生息状況】

倉橋町鹿島に記録がある。

カワラスズ

環境省 なし

Dianemobius furumagiensis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長7.5-8.4mm。体色は黒色～黒褐色。マダラスズに似るが、より大型。前翅基部に白色斑紋があり、小顎鬚の先端は白色となる。

生息環境：川砂の上に大小の転石が散在する川原。線路や操車場の敷石の間際にも生息する。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では広島市安佐北区、東区に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では広町広大川～二級峡下に古い記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

タイワンクツワムシ

環境省 なし

Mecopoda elongata

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長50-75mm。体色の変異の幅が広く、緑色型と褐色型およびその中間色の型もいる。クツワムシによく似るが、前翅の先端は、雌雄ともに後脚腿節の末端より長い。また、雌の産卵管は緩やかに上方にカーブする。

生息環境：沿岸部の林縁やそれに続く草地。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市及び安芸郡坂町のみが産地。

【呉市における生息状況】

呉市では天志町、下蒲刈町大地蔵、音戸町畑、倉橋町納・倉井・洲ノ崎・鹿老渡で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

移動分散能力に劣るため、土地改変の影響を受けやすい。

ハタケノウマオイ

環境省 なし

Hexacentrus japonicus

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長46-54mm。体色は緑型のみ。ハヤシノウマオイに酷似し、雌雄とも外見上では区別できないが、シッチョ、シッチョと短く区切って鳴く。

生息環境：開放的な中・高茎草原。

分布：国内では本州(山形県以西)、四国、九州に分布し、県内では広島市安佐北区、呉市、安芸郡坂町で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では蒲刈町県民の浜、下蒲刈町白崎・大野、倉橋町桂浜・袋ノ内・洲ノ崎で記録がある。

コオイムシ

環境省 準絶滅危惧

Appasus japonicus

広島県 準絶滅危惧



(撮影：神垣健司)

【種の概要】

形態：体長17-20mm。体形は扁平な卵形で、体色は淡黄褐色～淡褐色。

生息環境：ため池や水田等の比較的水深の浅い止水域に生息する。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では広島市、呉市、庄原市、東広島市、江田島市、廿日市市、安芸高田市などで記録がある。

【呉市における生息状況】

倉橋町や郷原町の記録と野呂山氷池周辺の湿地における観察記録(久藤：私信)があるが、現在の状況は不明。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

ケシウミアメンボ

環境省 なし

Halovelia septentrionalis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長1.5-2.4mm。体形は丸く、体表面は全体が光沢のないベルベット状の黒色。

生息環境：沿岸性で、主に岩礁地帯の潮間帯に生息する。

分布：国内では本州、四国、九州、琉球列島に分布し、県内では呉市、江田島市、廿日市市で記録がある。

【呉市における生息状況】

倉橋町や下蒲刈町、蒲刈町にて記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

2003年に初めて県内で記録された種で、島嶼部に広く生息していることが判明した。自然海岸の減少などで生息環境の減少にともない、生息地も危惧される。

エリザハンミョウ	環境省	なし
<i>Cylindera elisae</i>	広島県	準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長9-11mm。暗銅色で、上翅に強く湾曲する帯がある。

生息環境：海岸や河川敷、湖岸などの湿った粘土質や砂質の裸地に生息する。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では北広島町、安芸高田市、庄原市、安芸太田町、廿日市市、広島市、呉市、尾道市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では安浦町日ノ浦に記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

植物の繁茂により、裸地が少なくなることと、河川敷の整備などで生息環境が減少している。

セアカオサムシ	環境省	準絶滅危惧
<i>Hemicarabus tuberculosus</i>	広島県	準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長16-22mm。小型のオサムシ類で、前胸背板は緑色を帯びた赤銅色で、上翅にはこぶ状隆起の列がある。

生息環境：山地草原性のオサムシで局所的に分布している。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では庄原市、呉市、北広島町、安芸太田町、廿日市市などで確認されている。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市内に2例の古い記録があるがほぼ絶滅状態と思われる。

クロホシコガシラミズムシ	環境省	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Haliphus basinotatus latiusculus</i>	広島県	準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長3.9-4.1mm。体形は卵形。体色は黄褐色。上翅には明瞭な黒色斑紋がある。ヒメコガシラミズムシに似るが、上翅基縁に黒色の横条斑紋がある。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や掘割。

分布：国内では本州に分布し、県内では呉市、三原市に産地がある。

【呉市における生息状況】

呉市では安浦町野呂川ダムの記録のみである。

ヒメケシゲンゴロウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Hyphydrus laeviventris

広島県 準絶滅危惧



「昆虫の家 頑愚庵（呉市下蒲刈町）」所蔵標本

【種の概要】

形態：体長4.3-5.0mm。体形は円形に近い卵形で、背・腹面の両方向に膨隆する。上翅は暗黄赤褐色。上翅の大部分は黒色～黒褐色斑紋に覆われる。ケシゲンゴロウに似るが、前胸背板の前縁は黒色に縁どられる。

生息環境：湿地化した休耕田やハス田、水生植物が繁茂するため池など。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市と江田島市に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では音戸町竹田ヶ浜・畑・先奥・藤脇と倉橋町長谷の記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

生息地の減少と農薬の流入。

コウベツブゲンゴロウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Laccophilus kobensis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長3.4-3.8mm。体形はゆるやかな長い卵形。頭部と前胸背板は緑色がかった黄土色。ツブゲンゴロウに似るが、より小型。上翅の基部は暗色となり、複雑に連結する暗褐色の縦条斑紋を備える。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や、造成地の低茎草原にある定常的な水たまり。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では沿岸部の江田島市、呉市、東広島市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では音戸町畑で1例の記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

埋め立てや陸地化などによる生息地の悪化。

カムリセスジゲンゴロウ

環境省 準絶滅危惧

Copelatus kammuriensis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長4.6-5.6mm。体形は長めの卵形で、体厚は扁平。頭部と前胸背板、上翅は褐色～暗褐色で、緩やかな光沢がある。上翅の基部は白色に縁どられる。

生息環境：湿地化した休耕田や、造成地の低茎草原にある定常的な水たまりなど。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では沿岸部の江田島市、呉市、東広島市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では音戸町波多見・畑、倉橋町長谷・桂浜で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

埋め立てや陸地化などによる生息地の悪化。

トモクニセスジゲンゴロウ

環境省 なし

Copelatus tomokunii

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長4.5-4.9mm。体形は長めの卵形で、体厚は扁平。頭部と前胸背板、上翅は褐色～暗褐色で、ゆるやかな光沢がある。上翅の全体が淡色となる個体も多い。

生息環境：樹林内の細流や林道上の定常的な水たまり。

分布：国内(和歌山県以西)、九州に分布し、県内では呉市のみで生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では2009～2010年に野呂山山頂部の数ヶ所で記録されており、安定して発生を繰り返している。

【衰亡の要因とその対策】

道路建設や森林伐採などによる生息環境の縮小。

チビマルガムシ

環境省 なし

Paracymus orientalis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長2.2-2.3mm。体形は楕円形で、背面に向かって強く膨隆する。体色は黒色。中胸腹板の中央は三角状に突出する。

生息環境：植物遺体が堆積した富栄養のため池や湿地。

分布：国内(愛知県以西)、九州に分布し、県内では呉市と大崎上島町のみで生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では2009～2011年に音戸で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

湿地の埋め立て等による生息環境の縮小。

マルエンマコガネ

環境省 なし

Onthophagus viduus

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長5.0-9.8mm。鈍い光沢のある黒～黒褐色で、上翅に赤褐色紋をもつものもいる。

生息環境：牛の放牧地。

分布：全国に分布し、県内では東広島市と呉市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市と灰ヶ峰の古い記録のみである。

【衰亡の要因とその対策】

放牧地の減少。

オオフタホシマグソコガネ

環境省 なし

Aphodius elegans

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長11.0-13.0mm。大型のマグソコガネ類で、光沢のある黒色。上翅は黄色く、中央後方に黒紋をもつ。

生息環境：牛の放牧地と思われる。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、沖縄に分布し、県内では県北部の牛の放牧場などで確認されている。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市、灰ヶ峰、三津峰山の古い記録があるのみ。

【衰亡の要因とその対策】

放牧地の減少。

シロスジコガネ

環境省 なし

Polyphylla albolineata

広島県 準絶滅危惧



「昆虫の家 頑愚庵（呉市下蒲刈町）」所蔵標本

【種の概要】

形態：体長27-35mm。褐色の地に3本の白い筋を持つ。雄の触角片状部は大きい。幼虫はマツの根を食べる。

生息環境：海岸沿いの松林に生息する。

分布：全国に分布し、県内では沿岸部を中心に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では広町と音戸町高須の2例の記録がある。

ホソコハナムグリ

環境省 なし

Glycyphana gracilis viridis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長10.8-12.4mm。背面は緑、腹面は緑色を帯びた褐色。前胸背側縁、上翅側縁などに白斑をもつ。体形はやや細長い。

生息環境：林縁などで各種の花に集まる。

分布：国内では本州西部、四国、九州に分布し、県内では広島市南区(金輪島・似島)に産する。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市内に1例の古い記録があるのみ。

ジュウクホシテントウ

環境省 なし

Anisosticta kobensis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長3.8-4.1mm。楕円形の体型で、黄褐色の地に19個の黒紋がある。

生息環境：平野部の湿地に生息する。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では沿岸部でしか見つかっていない。

【呉市における生息状況】

呉市では仁方町小須磨と音戸町畑の記録がある。

キゴシジガバチ

環境省 なし

Sceliphron madraspatanum

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長20-28mm。腹柄節が黄色で非常に長い。アメリカジガバチとは、腹柄が黒色であることで区別できる。

生息環境：里山の民家や耕作地周辺などに生息する。

分布：国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では呉市と広島市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市と川尻町で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

外来種のアメリカジガバチとの競合。

フクイアナバチ

環境省 準絶滅危惧

Sphex inusitatus fukuianus

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長30mm前後。クロアナバチとは、翅の黒ずみがより強いこと、顔面に銀白色の毛がないところなどで識別が可能。ハネナシコロギスのみを狩る。

生息環境：里山の民家や耕作地周辺、伐採跡地などに生息する。

分布：国内では本州に分布し、県内では呉市、安芸太田町、庄原市、世羅町で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では、2007年に灰ヶ峰で初めて観察されている。

【衰亡の要因とその対策】

ハネナシコロギスの生息状況に左右される。



呉市灰ヶ峰公園 2007年9月2日 (撮影：神垣健司)

キバラハキリバチ

環境省 準絶滅危惧

Megachile xanthothrix

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

形態：体長15-18mm。体色は黒色で腹部背面が橙色の毛でおおわれる。腹柄節が黄色で非常に長い。アメリカカジガバチとは、腹柄が黒色であることで区別できる。

生息環境：自然海岸や河川敷の砂地などに営巣する。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市と廿日市市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では旧呉市で1例の記録があるのみ。

【衰亡の要因とその対策】

自然海岸の減少。

フシキキシタバ

環境省 なし

Catocala separans

広島県 準絶滅危惧



呉市灰ヶ峰公園 2012年7月1日

【種の概要】

形態：開長約52mm。前翅はくらくら灰褐色の地色で、複雑な黒帯と白褐色の斑紋が入る。後翅は黒褐色の地色で、暗いオレンジ色の太い帯が2本入る。

生息環境：常緑広葉樹、夏緑広葉樹の二次林。幼虫の食餌植物はアベマキやコナラが知られている。

分布：国内では本州、九州、対馬に分布し、県内では呉市、福山市で記録がある。

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰公園での記録がある。

マイコトラガ

環境省 なし

Maikona jezoensis jezoensis

広島県 準絶滅危惧



呉市灰ヶ峰公園 2017年3月20日

【種の概要】

形態：開長42-46mm。暗褐色の地色で、前翅の周縁と基部に赤帯が入り、また前翅中央に三日月型の模様が入る。

生息環境：夏緑広葉樹の二次林。幼虫の食餌植物はノブドウが知られている。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、県内では福山市内海町の記録があるのみ。

【呉市における生息状況】

呉市では灰ヶ峰で成虫の観察記録がある。

ギフチョウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Luehdorfia japonica

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

日本の特産種で秋田県から山口県にかけての本州のみに分布し、島嶼部には生息しない。前翅長は33mm前後、雌雄の外観上の差は少ないが雌がやや大型になる。主に里山の雑木林に生息し、春は明るく、夏の薄暗くなるような季節的推移がはっきりした林床を好む。成虫の出現期は年1回3月下旬～4月で、春に姿を見せることから「春の女神」と称されている。春から初夏にかけて幼虫はカンアオイ類を食べて成長し、夏・秋・冬を蛹で過ごす。



呉市灰ヶ峰 2015年4月19日

【呉市における生息状況】

灰ヶ峰を中心に分布し、野呂山の南西山麓にも少数が発生している。焼山や郷原、広三坂地などでも生息が確認されているが、近年姿を消した生息地も多い。現在、最も安定して発生しているのは灰ヶ峰公園を中心とする灰ヶ峰の北山麓と江ノ藤山である。



呉市灰ヶ峰 2005年5月22日

【衰亡の要因とその対策】

土地の開発や里山の放置などにより、生息地の環境が悪化したことが衰亡の主因である。また昆虫愛好家に人気の高い蝶であることから、過度の採集圧も衰亡に拍車をかけている。呉市では灰ヶ峰公園において生息地の環境整備とともに採集の自粛をお願いしており、現在でも安定してギフチョウが発生している。



呉市灰ヶ峰 2015年4月25日

クロツバメシジミ西日本亜種

環境省 準絶滅危惧

Tongeia fischeri shoji

広島県 準絶滅危惧



呉市安浦町 2003年11月16日

【種の概要】

本種は本州（関東地方以西）・四国・九州に分布し、そのうち西日本亜種ssp. shojiは中国地方・四国地方・九州内陸産の個体群である。前翅長約12mm前後、雌雄ともに翅表は黒褐色、翅裏面に灰褐色で黒点列を表す。成虫の出現期は4-11月、発生回数は年4回程度である。幼虫の食草はベンケイソウ科のツメレンゲ、イワレンゲ、オノマンネングサ等で、食草が自生する日当たりの良い露岩地や石垣、人家の屋根等を生息地としている。

【呉市における生息状況】

安浦町や蒲刈町・豊町で生息が確認されている。食草のツメレンゲは沿岸部を中心に広く分布するため、今後は新たな生息地が確認される可能性が高い。

【衰亡の要因とその対策】

食草であるツメレンゲが繁茂できる環境を維持することが重要である。

オオムラサキ

環境省 準絶滅危惧

Sasakia charonda

広島県 準絶滅危惧



【種の概要】

北海道、本州、四国、九州に分布し、適度に管理された規模の大きな雑木林で好んで生息する傾向がある。前翅長は53mm前後、雄の翅表は光沢がある美しい紫色、雌は紫色を欠くが雄に比べて一回り大型になる。年1回、成虫の出現期は6-7月で、樹液や腐果を好んで吸汁する。幼虫はエノキの葉を食べ、冬季はエノキに根元で幼虫越冬する。1957年に日本昆虫学会によって国蝶に選ばれた。

【呉市における生息状況】

現在も灰ヶ峰の周辺を中心に発生しているが、近年山麓の南側では個体数が激減している。阿賀町大空山や野呂山周辺でも生息は確認している。

【衰亡の要因とその対策】

食樹のエノキや蜜源になるアベマキ・クヌギなどが自生する雑木林の喪失や荒廃が衰亡の要因である。

ベニイトトンボ

環境省 準絶滅危惧

Ceriagrion nipponicum

広島県 要注意種

【種の概要】

本州・四国・九州に分布するが、いずれの生息地も局地的である。体長は35mm前後、成虫は全身が朱色がかった赤色で、普通のイトトンボよりやや大きい。水生植物が密に繁茂した溜め池に生息している。成虫の出現期間は6月中旬から10月初旬で、7月頃に最も個体数が多い。

【呉市における生息状況】

かつて本種は広島県に分布していなかったが、2004年に呉市北部の押込で生息が確認された。その後、次第に分布が広がり、現在では音戸町畑などの島嶼部でも生息している。

【衰亡の要因とその対策】

広島県に限っては、分布域が急速に拡大中であり、衰亡の状態ではないと考えている。



呉市音戸町畑 2006年9月2日

ヒメアカネ

環境省 なし

Sympetrum parvulum

広島県 要注意種

【種の概要】

北海道・本州・四国・九州に分布する。体長は13mm前後、アカネ属（赤とんぼ）の中で一番小さい種である。成熟すると雄は腹部が赤化し顔面は白くなるが、雌は成熟しても背面の橙色が濃くなる程度である。おもに平地から低山地にかけての周囲に木立のあるような湿地、耕作放棄された水田などに生息する。成虫は羽化後も水域から遠く離れることなく、付近の草原や林縁で摂食活動を行う。成虫の出現期は6月中旬から12月初旬である。

【呉市における生息状況】

呉市北部の湿地に広く生息する。また、生息地の湿地で見かけるアカネ属としては、比較的個体数が多い種である。

【衰亡の要因とその対策】

生息環境の変化により姿を消す生息地もあることから、湿地の環境保全について配慮が必要である。



呉市灰ヶ峰 2011年11月6日

イソカナタタキ

環境省 なし

Ornebius bimaculatus

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長11-15mm。頭部と前胸背板は橙褐色で、腹部背面にはそれよりやや暗色の鱗毛が密生する。雄の上翅は腹部中央に達せず、外縁の後端に小黒点を備える。

生息環境：沿岸の林縁やそれに続くマント群落。

分布：国内では本州(房総半島以西)、四国、九州、沖縄に分布し、県内では呉市と廿日市市で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では広町、蒲刈町恋ヶ浜・先福泊・木山、下蒲刈町大地蔵・桐谷・大野で生息が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

移動分散能力に劣るため、生息環境の変化に影響されやすい。

クツワムシ

環境省 なし

Mecopoda nipponensis

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長50-53mm。緑色型と褐色型がいる。タイワンクツワムシによく似るが、前翅の先端は、雌雄ともに後腿節の末端とほぼ同長かやや短い。また、雌の産卵管は上反せず、直線形となる。

生息環境：雑木林の林縁やマント群落。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では広島市と呉市に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では倉橋町鹿島で記録されている。

【衰亡の要因とその対策】

現状の生息状況は不明で、近年の観察事例もない。

カヤキリ

環境省 なし

Pseudorhynchus japonicus

広島県 要注意種



呉市警固屋 2017年8月13日

【種の概要】

形態：体長63-67mm。体色は淡緑色型と淡褐色型がある。

生息環境：ススキが繁茂する高茎草原や休耕地、ツルヨシが繁茂する河川敷。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では広島市安佐北区、呉市、江田島市、北広島町に産地がある。

【呉市における生息状況】

呉市では音戸町波多見・畑、倉橋町宇和木・脇田・袋ノ内・倉井・大迫・鹿老渡、警固屋に生息している。

【特記事項】

生息状況の把握が不十分で、現状が不明。

クロカタピロオサムシ

環境省 なし

Calosoma maximowiczii

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長22-31mm。光沢のある黒色で、前胸背板と上翅側縁は緑色を帯びる。アオカタピロオサムシとよく似るが、本種は黒味が強いほか、頭部と前胸背にはしわがあるが、アオカタピロオサムシのような密な点刻はない。また、前胸背板側縁の縁取りは後方まで完全であることで区別される。

生息環境：オサムシ類としては例外的に樹上に棲む。

分布：国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では呉市、三次市、北広島町で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では倉橋町長谷で確認している。



呉市倉橋町長谷 2016年5月7日

コマルケシゲンゴロウ

環境省 なし

Hydrovatus acuminatus

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長2.4-2.7mm。体形はやや幅広な卵形で、体厚は厚い。体色は黄赤褐色で上翅はやや暗色となる。マルケシゲンゴロウに似るが、上翅の小点刻はより小さく、やや疎にそなえる。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や湿地化した休耕田、水田周辺の堀割。

分布：国内では本州、四国、九州、沖縄に分布し、県内では広島市東区、呉市、東広島市、江田島市に生

息している。

【呉市における生息状況】

呉市では音戸町先奥・藤脇、倉橋町長谷・小尻郷・大迫で記録されている。

チャイロマメゲンゴロウ

環境省 なし

Agabus regimbarti

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長10.0-11.5mm。体形は楕円形。頭部と前胸背板は光沢のある黒色。クロズマメゲンゴロウに似るが、前胸背板の側縁は黄褐色に縁どられる。また、上翅は暗黄褐色で、側縁基部は淡色となる。

生息環境：水生植物が繁茂するため池や堀割。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市と北広島町に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では川尻町野呂山、音戸町畑、倉橋町洲ノ崎・大迫で記録されている。

【特記事項】

県内では1990年代では産地が多かったが、近年は減少している。

ババチビドロムシ

環境省 なし

Babalimnichus masami

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長1.9-2.0mm。体形は楕円形。体色は暗褐色で上翅に毛を密生させ、不定形な模様がある。

生息環境：海岸の岩礁や崖地の潮上帯。

分布：国内では本州(三重県以西)、四国、九州に分布し、県内では沿岸部の各所で記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では倉橋、蒲刈、安浦で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

自然海岸の減少など。

イソジョウカイモドキ

環境省 情報不足

Laius asahinai

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長3.8-4.2mm。体色は弱い金属光沢のある濃紺色。触角は黒色で、第1・第2節は黄色となり、雄の第2節は円盤状を呈す。

生息環境：岩礁海岸の潮間帯に生息する。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市、竹原市、尾道市、福山市、廿日市市、江田島市に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では倉橋町井目木・鹿老渡で記録がある。

カツラネクイハムシ

環境省 なし

Donacia katsurai

広島県 要注意種

【種の概要】

形態：体長6.0-8.0mm。体色は弱い金属光沢のある銅色で、赤味の強い個体もいる。ツヤネクイハムシによく似るが、本種の腿節は全体が上翅と同系の金属色となる点で区別できる。

生息環境：寄主植物であるスゲ類や訪花植物であるイグサ・ハリイ類が自生する湿原や湿地化した休耕田。

分布：国内では本州(愛知県以西)、九州に分布し、県内では呉市、安芸高田市、北広島町、世羅町に生息している。

【呉市における生息状況】

呉市では川尻町野呂山で記録がある。

ウスルリモンハナバチ	環境省	なし
<i>Thyreus centrimacula</i>	広島県	要注意種

【種の概要】

形態：体長12mm前後。ルリモンハナバチに比べて青色部の色が薄く、斑紋が異なる。

生息環境：奇主のシロスジコシブトハナバチが生息する自然海岸。

分布：国内では本州、四国、九州に分布し、県内では呉市と大竹市の2例記録がある。

【呉市における生息状況】

呉市では川尻町で記録がある。

【衰亡の要因とその対策】

自然海岸の減少など。

【特記事項】

県内では奇主のシロスジコシブトハナバチは未確認。

ツマグロキチョウ	環境省	絶滅危惧 I B 類
<i>Eurema laeta</i>	広島県	要注意種

【種の概要】

本州（宮城県以南）・四国・九州に分布し、分布の南限は屋久島である。前翅長18mm前後、近似種のキチョウに酷似するが、より小型で、前翅の前角はより強く角張り、翅の黒色の帯模様はより幅が広く、翅の裏に波状の模様があることで区別できる。成虫は春から秋にかけての年4回程度発生し、秋に発生した個体は成虫のままで越冬する。幼虫はマメ科のカワラケツメイを食べ、生息環境はカワラケツメイの生える河原や荒地などの草原環境に限られる。

【呉市における生息状況】

呉市の北部を中心に広く分布する。生息地は局地的であるが、現在も安定して発生を続けている。

【衰亡の要因とその対策】

カワラケツメイは河原の石ころが転がっているような荒地などの草原によく見られる植物で、近年は河川改修などによって、そうした場所が減ってしまったことが本種の衰亡の要因である。ただし、呉市では北部を中心として、現在もため池周辺などにカワラケツメイの群落が多く見られることから、当面は安定して発生すると思われる。



ウラギンスジヒョウモン

環境省 なし

Argyronome laodice

広島県 要注意種

【種の概要】

北海道・本州・四国・九州に分布し、山地の明るい林や草原に生息する。前翅長35mm前後、雌は雄より一回り以上大型になる。成虫は年1回6月中旬頃に発生し、夏季は夏眠するためいったん姿を消し、秋に産卵のため再び姿を見せる。卵は晩秋に孵化し、そのまま初齢幼虫で越冬する。幼虫はスミレ類を食べる。

【呉市における生息状況】

呉市では島嶼部を除く全域に広く分布していたが、近年ヒョウモンチョウ類の中では減少傾向が顕著な種

である。現在、平地部ではほぼ姿を消し、灰ヶ峰や野呂山、郷原の草地などで若干の個体が確認できる程度である。

【衰亡の要因とその対策】

疎林や林縁の草地が減少したことや、里山的環境が開発により失われたことなどが考えられる。近年、生息地である里山の荒廃によって、食草であるスミレ類が育たない暗い林やうっそうとした草地が増えていることから、今後はスミレ類が育ちやすい明るい環境を確保する必要がある。



呉市灰ヶ峰 2016年7月17日

スナガニ

Ocyroide stimpsoni

環境省

絶滅危惧Ⅱ類

広島県

準絶滅危惧

【種の概要】

東北地方以南に広く分布する。甲幅は3cmほどで、甲は背中側こやや膨らんだ長方形をしている。鋏脚は左右どちらかが大きい。水のきれいな目の細かい砂浜に生息し、満潮線付近に数十cm～1mほどの深い巣穴を掘る。潮が満ちてこないほどの高さに、直径が2-3cmほどの円形の穴があれば、スナガニの巣穴の可能性が高い。巣穴の周囲には掘った砂が薄く積み上げられている。夜行性で、夜になると砂浜を歩き回り、動物の死体や藻類などを食べる。また、砂浜に生息する小動物も捕食する。

夜はそれほど警戒心は強くないが、昼は非常に警戒心が強く、大きな動くものを見つけると素早く巣穴に逃げこむ。人間が巣に接近すると数十m離れていても巣穴に逃げこみ、一旦巣穴に逃げこむと物音がする間はまず出てこない。巣穴まで遠い場合などは走って逃げますが、走るスピードはカニ類トップクラスで、人間の小走りくらいのスピードで砂浜を疾走することができ、急な方向転換などもこなす。波打ち際の濡れた砂までやってくると数秒以内に素早く砂に潜る。

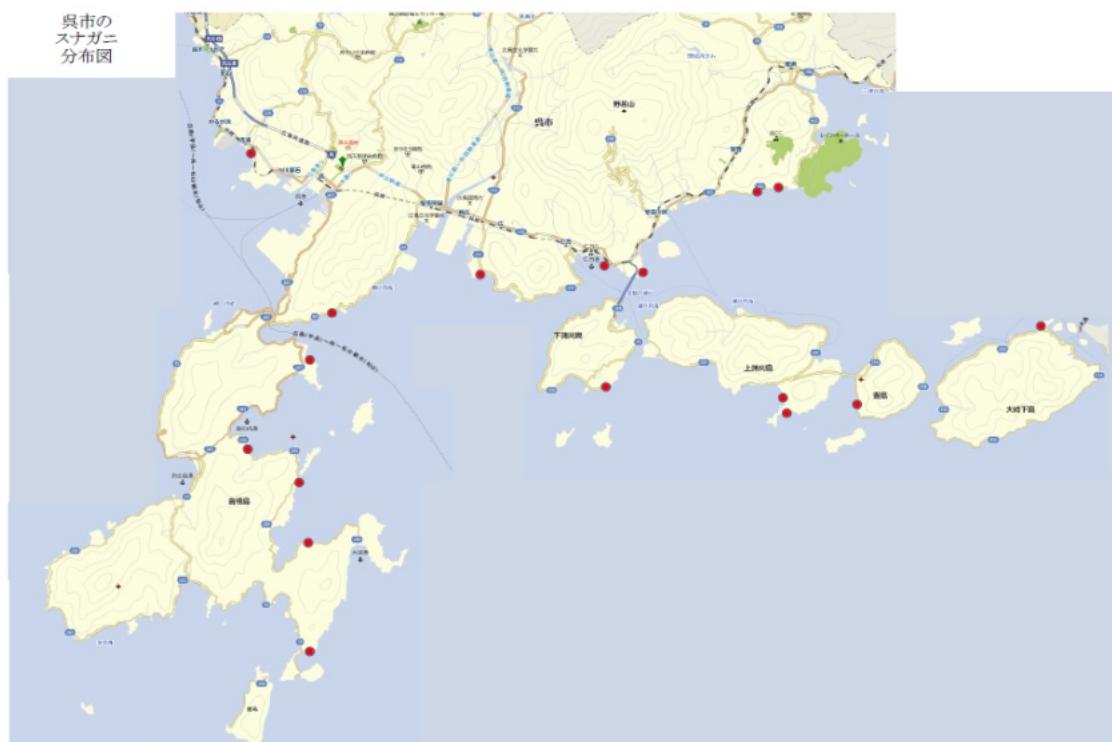
【呉市における生息状況】

満潮時にも水没しないきれいな砂浜でないと生息できない。呉市では、このようなきれいな砂浜はほとん

どが海水浴場として利用されていて、昼間は海水浴客でにぎわい、巣穴の表面は踏み荒らされるが、夜になると穴の中から砂をかき分けて出てきて活動する。早朝に浜を歩くと掘られた巣穴を見ることができる。

【衰亡の要因とその対策】

海水浴場などで巣穴を見ることができるが、海洋汚染や砂浜の減少により生息地が減少傾向にある。環境を確保する必要がある。



ハクセンシオマネキ

Uca lactea

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 準絶滅危惧



【種の概要】

スナガニ科のカニの一種で、オスは片方のハサミが極端に大きくて白い。甲幅2~3cmほどで、甲は長方形に近く、甲の背面は灰白色の無地、雲状の横しま模様、黒地に白小斑など個体差がある。生息域は河口域・干潟・内湾の砂浜などの塩分濃度が低い地域の満潮線付近、泥まじりのやや堅い砂浜が転石地帯で、干潮時にも乾燥せず、また水もかぶらない区域に限られる。このような条件が揃った区域にそれぞれが巣穴を掘り、集団で生活する。この区域に近接

してチゴガニが生息することが多い。

巣穴は入り口の直径2cm、深さ20cmほどで、巣穴の周囲にはコメツキガニと同様に砂団子が見られる。近付くと素早く巣穴に逃げこむが、動かずに待っていると数分で姿を現す。

繁殖期は6-8月で、オスは潮が引くと巣穴から出てきて、メスへの求愛のため巨大なハサミを横から上へ振り上げ体の前へおろす運動(ウェービング)をくり返す。ハサミを上げ下げする行動が白い扇子を振って潮を招くように見えることから名付けられた。本州太平洋岸、四国、九州、朝鮮半島南部沿岸に分布する。

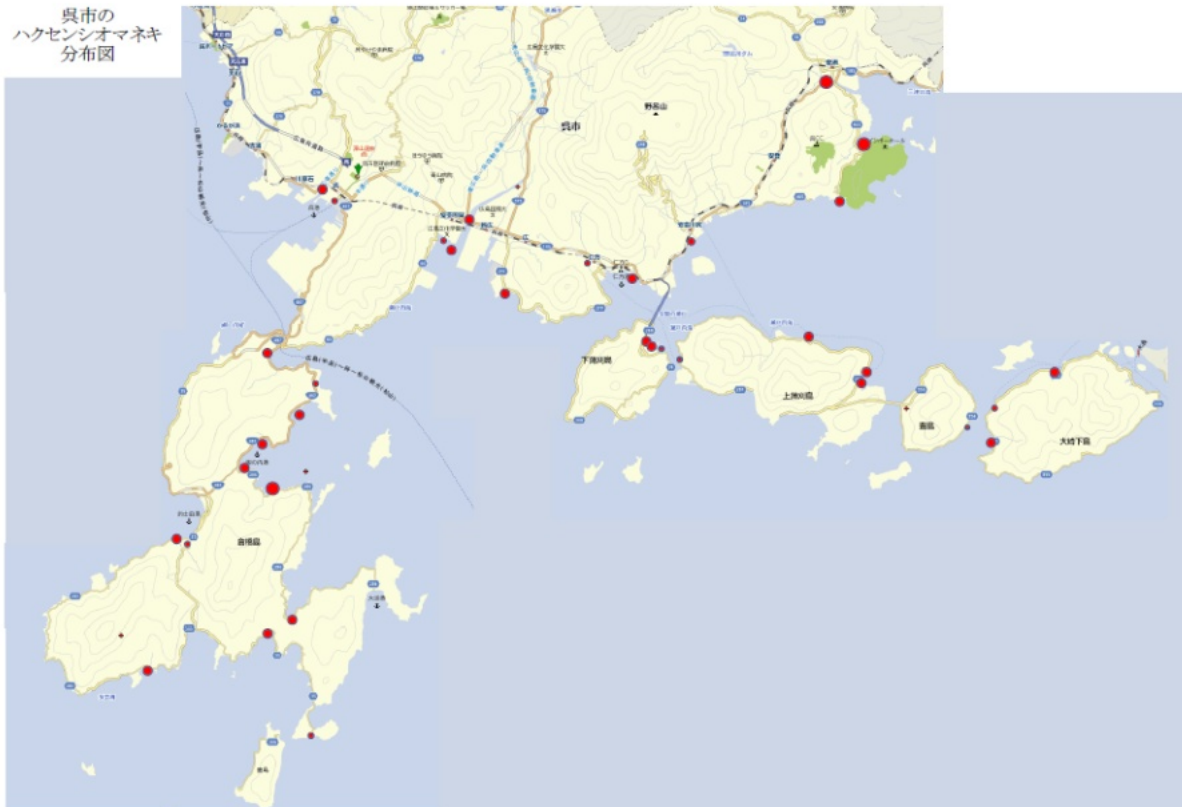
【呉市における生息状況】

呉市では現在のところ、沿岸部や島しょ部の全域に広く分布している。

【衰亡の要因とその対策】

河口や干潟が汚染などで泥質化が進むと生息できなくなる。環境を確保する必要がある。

呉市の
ハクセンシオマネキ
分布図



ホウネンエビ

Brachinella kugenumaensis

環境省 なし
 広島県 要注意種

【種の概要】

水田などに発生する体長2cmほどの甲殻類である。身体を支えるような歩脚をもたず、鰓脚と呼ばれる呼吸器を備えた遊泳脚のみを持っている。体は緑色半透明で、尾脚の先端部は紅色である。背を下にして付属肢をすばやく巧みに動かして遊泳する。初夏、カブトエビとともに水田で見られることが多いが、ともに寿命が短い。本種が大発生する年は豊年であるという言い伝えからその名がある。

【呉市における生息状況】

郷原町及び安浦町の水田で生息を確認している。

【衰亡の要因とその対策】

開発による水田の減少や水田の農薬使用。



呉市郷原町 2008年6月1日

ハマガニ

Chasmagnathus convexus

環境省 なし
 広島県 要注意種

【種の概要】

主に西日本で見られる。成体は甲幅50mm前後で、額に明瞭な縦の溝がある。甲羅は紫がかった茶色で縁は橙色で縁取られる。ハサミは太く発達し、紫色で表面は滑らか。ハサミの先黄白色。

汽水域・河口付近に分布し、ヨシ原などの汽水域上限付近の比較的植生が多く泥が固い区域に、直径10cm・深さ50cmほどの巣穴を掘る。

潮が引いた湿地上で活動するが、夜行性が強く昼間はあまり出てこない。また冬は巣穴の奥にひそんで冬眠する。生息地に近づくと巣穴に逃げ込むが、動きは遅い。食性は主にヨシ等の植物の葉を食べる

【呉市における生息状況】

潮の影響のない汽水域の湿地(ヨシ原や川土手の斜面)に穴を掘って生息するカニであり、基本的に夜行性のため、目にする機会がほとんどない。

【衰亡の要因とその対策】

汽水域の湿地に生息するカニであり、埋立・浚渫・河川改修による生息地の消滅、あるいは環境汚染が個体群存続の脅威となる。



ミシマサイコ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Bupleurum scorzoneraefolium var. *stenophyllum*

広島県 絶滅危惧Ⅰ類



(撮影：神垣健司)

【種の概要】

山野に生える多年草。茎は高さ40-70cm、上部は分枝する。花は黄色で8-10月ごろに咲く。葉は広線形で、長さ4-15cm。薬草として採取されることが多いので、各地で減少している。

【呉市における生息状況】

呉市においては過去に野呂山や灰ヶ峰から報告があるが、現在全くその生育が確認されていない状態である。

【衰亡の要因とその対策】

生育地である林縁の草地や周辺の地域の改変や自然遷移による環境変化により、その生育地が失われたことや、薬草として採取されることにより、その個体数が減少したと思われる。生育している環境の保全、特に日照等の確保が望まれる。

ムラサキ

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

Lithospermum erythrorhizon

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

大陸系の多年草。乾燥した日当たりのよい林縁や草原に生育する。根は太く、乾くと濃紫色になる。葉は互生し、長さ3-7cmの披針形。花は白色で6-7月ごろに咲く。花冠は白色。

【呉市における生息状況】

呉市においては野呂山や白岳山から報告があるが、近年全くその生育が確認されていない。絶滅したと思われる。

【衰亡の要因とその対策】

生育地である草地や周辺の地域の改変や自然遷移による大きな環境変化により、その個体数が激減したと思われる。

【特記事項】

日本列島と大陸との関連を示す種であり、植物地理学上からも重要である。また、古来、紫色の染料の材料として有名である。

シバナ

Triglochin asiaticum

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧 I 類

【種の概要】

満潮時に海水の浸入する砂泥地に生育する多年草。地下茎は横こはい、葉は白色線形で肉質。長さ10-20cm。葉鞘の先に三角状の葉舌があるのも特徴。花は9月ごろに開花し、花茎は高さ15-20cm。瀬戸内海に見られる塩生植物の代表的な種。

【呉市における生息状況】

呉市においては、蒲刈町や安浦町から報告されているが、現在その生育は確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

海岸開発や土地造成等による生育地の改変によるものと思われる。

リュウノヒゲモ

Potamogeton pectinatus

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧 I 類

【種の概要】

沈水植物。茎が細く、よく分枝する多年草。葉は、長さ5-10cm、幅0.3-1.3mmの針状で、全縁。葉の基部は托葉と合着して茎を抱く。花は7-9月ごろに開花して、花穂をつける。まばらに花被のない花をつける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、安浦町内の小川内に生育しており、地域や小学校等による保護活動が進められている。

【衰亡の要因とその対策】

呉市においては、河川開発や土地造成、また水質汚濁等により、生育環境が悪化しつつある。



呉市安浦町 2016年10月8日

カワツルモ

Ruppia marima

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧 I 類



呉市安浦町 2017年6月28日

【種の概要】

海水の影響を受ける汽水中に生育する多年草。茎は横にはい、節から枝を20-50cmほど伸ばす。1m近くに達する。葉は糸状で互生し、下部は葉鞘となる。花は6-8月に咲き、散形に4-7個つける。花後に花柄が伸長して、多少ねじれることが多い。果実はやがんだ卵形で、先端は短く嘴状で、長さ2.5mmくらい。

【呉市における生息状況】

呉市においては、安浦町の海岸部にその生育が確認されており、地域の保護活動も行われている。

【衰亡の要因とその対策】

海岸開発や埋め立て等、あるいは高潮による海水の浸入などにより個体数の減少が著しいものと思われる。

ヒナノシャクジョウ

Burmannia championii

環境省 なし

広島県 絶滅危惧 I 類



呉市焼山町 2017年8月20日

【種の概要】

山地の林末に生育する一年草。繊細な白色の腐生植物で、高さ3-15cm。根茎は球状で多数のひげ根がある。花は白色で、柄がなく、やや頭状に集まる。花筒部には翼はない。花期は8-10月。

【呉市における生息状況】

呉市においては、焼山町の二次林内で30個体以上の生育が確認されているが、稀である。

【衰亡の要因とその対策】

呉市においては、森林伐採や土地造成、道路工事などによる生育地の改変などによる個体数の減少が著しいものと思われる。

マイヅルテンナンショウ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Arisaema heterophyllum

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

山地の草原に生育する多年草。高さ60-120cm。葉は1枚で鳥足状に13-19枚の小葉からなる。頂小葉は両端の側小葉より小さい。花柄は葉柄より長い。花序は先が急に細くなってやや伸びる。花序の付属体は仏炎苞から外に伸びて、S字状に曲がり跳ね上がる。成長すると、雌株から雌雄同株へと性転換する。

【呉市における生息状況】

呉市においては、灰ヶ峰周辺に数個の集団が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

イノシシによる食害や攪乱、また園芸採取による個体数の減少が著しいものと思われる。

【特記事項】

2003年に県内で初めて確認された。



呉市灰ヶ峰 2017年6月24日

ヒナラン

環境省 絶滅危惧ⅠB類

Amitostigma gracile

広島県 絶滅危惧Ⅰ類

【種の概要】

山地樹林下の岩上に生える小型の多年草。根は紡錘形に肥厚する。茎は高さ5-15cmで、下部に1枚の葉をつける。花期は5-7月ごろに咲く。淡紫色の花を10-15個、花茎の一方に偏ってつける。

【呉市における生息状況】

呉市においては野呂山から報告があり、野呂川ダム周辺の道路法面に生育しているのが確認されています。現在全くその生育が確認されていない状態である。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や崩落防止工事による生育地の消滅や周辺の自然遷移による環境変化により、その個体数が激減している。また、採取圧が非常に高いこともあげられる。



呉市野呂山 2013年6月23日 (撮影：神垣健司)

タシロラン

Epipogium roseum

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧Ⅰ類



呉市郷原町 2012年7月18日

【種の概要】

常緑樹林下に生育する腐生ラン。茎は高さ20-50cmで、白黄色。薄い膜質の鞘状葉を数個つける。5-7月に、多数の白色花を総状につける。

【呉市における生息状況】

呉市においては郷原町から報告がある。林道の路傍に10個体以上が観察されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事による生育地の消滅や周辺の環境変化（踏みつけやごみの廃棄等）により、その個体数が減少している。

オキナグサ

Pulsatilla cernua

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市灰ヶ峰 2017年4月22日（撮影：神垣健司）

【種の概要】

日当たりのよい草地や川原、山地の路傍などに生える多年草。羽状複葉の根生葉をつける。4-5月、10cm内外の花茎を伸ばし、先端に暗紫色の花をつける。花の外側は長い白毛でおおわれる。花後、果実には長く長い綿毛が密生する。この姿が、老人の白髪頭のように見える。

【呉市における生息状況】

呉市においては、灰ヶ峰で1か所生育が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

観賞価値が高く、乱獲されることが多い。また、土地開発、河川改修などの生育地の破壊などもある。生育地においては、定期的に草刈りを行うことにより、日当たりをよくする必要がある。

キビヒトリシズカ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Chloranthus fortunei

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

落葉樹林下の下草のあまり茂らないところに生育する多年草。短くかたまつた根茎から、高さ30cmほどの茎が数本直立する。茎の上部に4枚の葉を輪生し、2対の葉の節間が多少あくこともある。穂状花序をなし、雄しべの白い花糸を3本長く突出し、基部は子房に合生する。葯は4個あり、花糸の基部の内側にこつく。

【呉市における生息状況】

呉市においては、白岳山の落葉樹林下に群生することが確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成などによる生育地の改変や自然遷移による環境変化、また園芸採取による乱獲により個体数の減少しているものと思われる。

【特記事項】

大陸と日本列島の関連を示す植物地理学上の重要な種である。また、本県内においては、中・古生層の粘板岩等の地域に分布が限られていると思われる。



呉市広町・白岳山 2016年4月13日

イシモチソウ

環境省 準絶滅危惧

Drosera peltata var. *nipponica*

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日当たりがよく、湿原の周辺や栄養の乏しい湿った荒地など、粘土の多い土地に生育する食虫植物。地中に球形の塊茎がある。高さ10-30cmの茎をのばし、三日月型の茎葉を互生する。茎葉の表面や縁に長い腺毛をつける。腺毛の先は粘液球になり、昆虫などを捕食し、消化吸収する。盛夏には休眠し、枯れる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山、灰ヶ峰、郷原町などに生育している。郷原町では、山道の路傍に20個体以上が観察されている。

【衰亡の要因とその対策】

湖沼開発や湿地開発による生育地の消滅や周辺の環境変化（水質汚濁や富栄養化、埋め立て等）により、その個体数が激減している。

多様性に富む多くの自然環境の保全、特に小さな湿地などの保全や定期的な周辺の草刈り等の対策が望まれる。



呉市郷原町 2013年7月10日

バクチノキ

Laurocerasus zippeliana

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

山地林内に生育する常緑高木。高さ15mになる。葉は革質の長楕円形で、葉柄の上部に1対の蜜腺をつける。花期は9月。葉腋から穂状の花序をだす。核果はゆがんだ長楕円で、翌年に黒紫色に熟す。樹皮がうろこ状にはげ落ち、特徴のあるまだら状になる。

【呉市における生息状況】

呉市の灰ヶ峰南斜面に生育していたが近年伐採され、その後確認されていない。蒲刈町には生育しているのが確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事などにより、生育地が減少している。

ヤマビワ

Meliosma rigida

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市倉橋町 2015年4月13日

【種の概要】

暖地性の常緑小高木。枝先に、革質で長さ12-30cmほどの葉を密につける。表面は無毛で、裏面の葉脈は細脈まで明瞭に隆起する。若枝、花序、葉柄、および葉裏に褐色の綿毛を密生するのも大きな特徴。

【呉市における生息状況】

呉市においては、阿賀町の神田神社社叢内に生育している。また倉橋町の山地道路沿いにも数本生育しているが少ない。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や道路工事、あるいは土地造成等による生育地の改変により、その個体数が減少している。

【特記事項】

呉市阿賀町の神田神社社叢は、呉市の天然記念物に指定されている。また、本種はスミナガシやアオバセセリの食樹として知られている。



呉市阿賀町 2017年7月3日

ムラサキミミカキグサ

環境省 準絶滅危惧

Utricularia uliginosa

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日当たりのよい湿地に生育する食虫植物。補虫嚢は地下葉や根茎につける。地上葉は小さい。草丈は高さ20cmくらいになる。花期は6-9月で、薄紫色の花をつける。がくは下向きで、乳頭状の突起がある。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山、灰ヶ峰、郷原町、安浦町などの各地の小湿地に点在している。

【衰亡の要因とその対策】

湖沼開発や湿地開発による生育地の消滅や周辺の環境変化（水質汚濁や富栄養化、埋め立て等）により、その個体数が激減している。

多様性に富む多くの自然環境の保全、特に小さな湿地などの保全や定期的な周辺の草刈り等の対策が望まれる。



呉市郷原町 2013年9月7日（撮影：神垣健司）

トウオオバコ

環境省 なし

Plantago japonica

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

海の近くの草地に生育する多年草。全体ほぼ無毛。葉はすべて根生し、やや厚く卵形で、長さ8-25cm、幅5-18cm。先は鋭く、基部はしだいに狭まって急に葉柄になる。葉の間から長い花茎を数本伸ばす。花期は7-8月。果実は蓋果で、熟すと中央で横に割れる。中に8-12個の種子がある。

【呉市における生息状況】

音戸町、川尻町、倉橋町鹿島から報告されていたが、現在確認されていない。しかし、近年二河川河口付近において、多くの個体が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

海岸開発や埋め立て等、道路工事等により、個体数の減少が著しいものと思われる。



呉市二河川 2017年8月1日

ホンゴウソウ

Sciaphila nana

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市焼山町 2011年8月13日 (撮影: 神垣健司)

【種の概要】

南方形の微細な腐生植物。暗い林床下の落ち葉の間に生える。地上茎の高さ3-4cm。退化した鱗片状の葉には葉緑素はない。葉と茎は紫色。8月ごろ、茎の上部に雄花、その下部に雌花をつける。本種の生育地は全国的にごくわずかしから知られておらず、きわめて希少な植物である。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山や安浦町、焼山町から報告されている。焼山町では、20個体以上が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事等による生育地の改変によるものと思われる。落ち葉が堆積し、安定した森林を維持する必要がある。

イナコスズ

Neosasamorpha tsukubensis ssp. *pubifolia*

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市焼山町 2017年8月20日

【種の概要】

小型のササ。稈は高さ40-70cm、径1-2mm。稈の上部から基部にかけて分枝する。肩毛はない。稈鞘や葉鞘は無毛であり、節間は無毛かまたは逆行細毛がある。枝の先端に、線状披針形の葉を2-3枚つける。長さ9-18cm、幅1.5-2.5cm。裏に軟毛がある。

【呉市における生息状況】

呉市においては、焼山町、天応町の林縁の斜面に群生している。比較的乾燥している岩場付近に生育していることが多い。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や道路工事、あるいは土地造成等による生育地の改変により、その個体数が減少している。特に、道路周辺の雑草として除去されるおそれがあるため、道路工事や除草剤の使用や下刈り等に注意が必要である。

アキトスゲ

環境省 なし

Carex kamagariensis

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

日当たりのよい山道沿いに生育する小型の多年草。地際から密に叢生し、稈は高さ20-35cm、葉の幅1.5-3mm。小穂は3-4個つけ、頂小穂は雄性で線形～棍棒状、長さ1-3cm、幅1.5-2.5mm。側小穂は雌性。果胞は長卵形でわずかにくびれ、多数の脈と細毛がある。柱頭は3岐する。

【呉市における生息状況】

呉市においては、蒲刈町等の島しょ部の日当たりのよい農道沿いの斜面に生育している。

【衰亡の要因とその対策】

道路工事や土地造成、あるいは道路周辺の雑草刈りにより除去されるおそれがある。道路工事や除草剤の使用や下刈り等に注意が必要である。

【特記事項】

Okamoto (1965) によって、新種として記載された。基準標本産地は、呉市蒲刈町。

キンラン

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Cephalanthera falcata

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

丘陵地の疎林下に生える多年草。茎は高さ30-70cmで、線状に隆起した稜がある。広披針形の葉を5-6個つける。4-6月に、3-12個の黄色花をつける。

【呉市における生息状況】

呉市においては野呂山や灰ヶ峰などから報告があり、現在もその生育が確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成工事等による生育地の消滅や周辺の自然遷移による環境変化により、その個体数が激減している。また、過度の採取圧が非常に高いこともあげられる。



呉市灰ヶ峰 2017年5月21日 (撮影: 神垣健司)

サギソウ

環境省 準絶滅危惧

Habenaria radiata

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市灰ヶ峰 2011年8月30日

【種の概要】

湿地に生える多年草。茎は高さ20-40cmで、下部に長さ5-10cmの葉を数個つける。7-8月、白色で大型の唇弁と長い距を持った花を1-3個つける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山や灰ヶ峰などの湿原や小湿地から報告があり、その生育も確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

湿地の開発や土地造成工事等による生育地の消滅や周辺の自然遷移による環境変化により、その個体数が激減している。また、過度の採取が非常に高いこともあげられる。

トキソウ

環境省 準絶滅危惧

Pogonia japonica

広島県 絶滅危惧Ⅱ類



呉市灰ヶ峰 2017年6月24日

【種の概要】

湿地に生える多年草。地下に横に伸びた根茎がある。茎の高さ10-30cmで、中央部に線状長楕円形の葉を1枚つける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山や灰ヶ峰などの湿原や小湿地から報告があるが、きわめて個体数は少ない。

【衰亡の要因とその対策】

湿地の開発や土地造成工事等による生育地の消滅や周辺の自然遷移による環境変化により、その個体数が激減している。また、過度の採取圧が非常に高いこともあげられる。

ミヤコミズ

環境省 なし

Pilea kiotensis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

山地の湿ったところに生える一年草。多汁質で軟弱。茎は高さ20-40cmで、下部で分岐する。葉は卵形で長さ3-12cmになり、基部は楔形で先は尾状に尖る。両面に毛が生え、葉柄は葉身より短い。秋に葉腋に集散花序つけ、花序柄に乳頭状の短毛がある。

【呉市における生息状況】

呉市においては、蒲刈町に生育しているのが確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事などにより、生育地が減少している。

マツナ

環境省 なし

Suaeda glauca

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

満潮時に海水の浸入する塩湿地や砂浜に生育する一年草。茎は高さ40-80cmで直立する。葉は密に互生し、線形で無柄、長さ1-3cm、幅0.5-1mm。花期は8-10月。上部の葉腋(ようえき)に数個の小花を開く。秋には葉が紅葉する。瀬戸内海に見られる塩生植物の代表的な種。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町や下蒲刈町の塩湿地や砂浜から報告されており、仁方町でもその生育が確認されているが、生育地は減少している。

【衰亡の要因とその対策】

海岸改修や道路工事等による生育地の改変によるものと思われる。



呉市倉橋町 2017年7月2日

ハンゲシヨウ

Saururus chinensis

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧



呉市倉橋町 2017年6月25日

【種の概要】

低地の水辺や湿地に群生する多年草。茎は高さ50-100cmで、地下茎は太く横に這う。葉は卵形で、葉脈が5-7本あり、基部は心形になる。花期は6-8月。花のすぐ下の葉の表面が白くなる。葉をちぎると特有の臭いがする。花穂は細長く垂れ下がる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、広町や倉橋町、蒲刈町などの海に近い耕作地付近や湿地などに群生しているが、その生育地は減少している。

【衰亡の要因とその対策】

湿地開発や道路工事等による生育地の改変、生育地の環境変化によるものと思われる。

フウトウカズラ

Piper kudzura

環境省 なし

広島県 準絶滅危惧



呉市豊町 2017年8月27日

【種の概要】

常緑でつる性の大木。海岸付近の樹林下に生育する。茎や枝は緑色で、節から根を出す。葉は厚く革質で、互生する。長さ5-8cm、5本の葉脈が目立つ。雌雄別株。

【呉市における生息状況】

県内においては、蒲刈町と豊浜町の2ヶ所だけに生育している。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や自然遷移による生育地の環境変化によるものと思われる。本種は、溪谷の林内に生育しているので、周囲の森林が伐採されると日照条件が変わり、消失する恐れがある。

イワタイゲキ

環境省 なし

Euphorbia jolkinii

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

海岸の砂浜や岸壁に生える多年草。根は太い。地際から長さ40-80cmほどの茎を多数つける。葉は長さ5-8cm、幅6-15mm、前縁で、密に互生して多数つける。花は4月下旬から5月上旬に咲く。総苞葉は鮮黄色で、長さ7-20mm。植物体を傷つけると、白い乳汁が出る。

【呉市における生息状況】

瀬戸内海においては、自然海岸が少なくなるにつれて激減している。県内においては、宮島などに生育しているがきわめて希少である。呉市内では倉橋町の1ヶ所（計2株）だけに生育している。

【衰亡の要因とその対策】

海岸開発や土地造成等による生育地の環境変化が脅威を与えていると思われる。



呉市倉橋町 2017年7月2日

ハマウド

環境省 なし

Angelica japonica

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

海岸に生える大形の多年草。茎は中空で、高さ1-3m。葉は1回3出し、さらに羽状に分裂する。夏に大形の複散形花序花をつけ、多数の白い花をつける。花弁は5個で、短い。果実は軍配の形で、広い翼を持つ。

【呉市における生息状況】

本州（関東及び中部地方以西）、四国、九州、台湾等に分布するが、瀬戸内海からは本県以外には報告がない。呉市内では倉橋町内の5ヶ所の礫質の海浜に生育しているが、いずれも個体数は少ない。

【衰亡の要因とその対策】

大形の植物なので採取されることはないが、呉市においては、海岸開発や土地造成等による生育地の環境変化が脅威を与えていると思われる。



呉市倉橋町 2017年6月25日

ゲンカイツツジ

環境省 準絶滅危惧

Rhododendron mucronatum var. *ciliatum*

広島県 準絶滅危惧



呉市倉橋町火山 2012年4月15日

【種の概要】

典型的な大陸系要素の落葉低木。3-4月、新葉を伸ばす前に花冠が紅紫色の花を多数つける。径3-4cmのろうと状に開く。葉の両面や枝に円形鱗状の毛を多くつける。

【呉市における生息状況】

本県内では、岩峰や尾根筋の標高の高いところのアカマツ林下に群生する。呉市内では倉橋町内の花こう岩の山頂付近に連続して生育している。貧栄養な立地に限られる。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成等による生育地の環境変化が脅威を与えていると思われる。

ハマサジ

環境省 準絶滅危惧

Limonium tetragonum

広島県 準絶滅危惧



呉市倉橋町 2017年7月2日

【種の概要】

満潮時に海水が入る海岸付近の塩湿地に生育する一年草。地際に葉を多くつけ、葉は厚く長楕円形状へら形。花期は9-10月。高さ30-50cmの花茎を伸ばし、先に円錐状の花序をつける。瀬戸内海に見られる塩生植物の代表的な種。海岸に生え、その葉がさじ形であることから名づけられた。

【呉市における生息状況】

呉市においては、川尻町、音戸町、倉橋町、下蒲刈町、安浦町の塩湿地や砂浜から報告されているが、いずれの地点でも個体数は少ない。

【衰亡の要因とその対策】

県内最大の塩生植物群生地であった呉市倉橋町長谷海岸が埋立てられた。瀬戸内海では、埋立てなどによって、生育地が著しく減少している。

ナミキソウ

環境省 なし

Scutellaria strigillosa

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

海岸近くの乾いた草地に生える多年草。茎は四角形をしており、立ち上がって高さ15-50cmになるが、80cm以上になることもある。また茎の下部から走出枝を出す。葉は楕円形で先が丸く、対生し、裏面には腺点が散生する。花期は7-9月。茎頂や葉腋に青紫色の口唇状の花をつける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、安浦町の1か所に生育している。県内では宮島からも報告されているが、近年確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

草地開発や道路工事、土地造成などにより、生育地が著しく減少している。



呉市安浦町 2017年6月28日

オオヒキヨモギ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Siphonostegia laeta

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

日当たりのよい草地や崖地に生える半寄生の一年草。茎は長さ30-70cmになり、垂れ下ることもある。葉やがく筒などにも開出した腺毛が密に生える。葉は茎の下部では対生し、上部では互生して、羽状に深く裂ける。8-9月、茎の上部の葉腋ごとに灰黄色の花を1個つける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、安浦町の1か所に生育しているのが確認されている。

【衰亡の要因とその対策】

草地開発や道路法面工事、土地造成などにより、生育地が著しく減少している。



呉市安浦町 2017年9月15日

イワツクバネウツギ

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Zabelia integrifolia

広島県 準絶滅危惧



呉市広町・白岳山 2017年7月8日

【種の概要】

日当たりのよい岩壁や岩峰に生育する、高さ2mほど落葉低木。葉は対生する。両面に粗毛が多い。葉柄の基部は広がって腋芽をつつむ。5-6月ごろに、枝先に白い2つの花冠をつける。

【呉市における生息状況】

呉市においては、白岳山の石灰岩地に生育していることが確認されている。県内においては、呉市は海岸に近い生育地として重要である。

【衰亡の要因とその対策】

石灰採掘、森林伐採や土地造成などによる生育地の改変や自然遷移による環境変化により個体数の減少しているものと思われる。

【特記事項】

大陸と日本列島の関連を示す植物地理学上の重要な種である。また、本県内においては、沿岸部から吉備高原面にかけて、主として石灰岩地帯に分布する。

フクド (ハマヨモギ)

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

Artemisia fukudo

広島県 準絶滅危惧



呉市安浦町 2017年10月4日

【種の概要】

満潮時に海水が入る河口付近の湿地に群生する多年草。高さ30-90cmの茎を直立する。根生葉は厚く、初めはくものす状の毛が多い。花期は9-10月頃。花頭は幅4mm。咲き終わると枯れる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町、安浦町、下蒲刈町の塩湿地や砂浜から報告されている。

【衰亡の要因とその対策】

海浜開発や埋立て、道路工事などによって、生育地が著しく減少している。

ウラギク

環境省 準絶滅危惧

Aster tripolium

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

満潮時に海水が入る海岸付近に群生する越年草。茎は太く直立し、高さ1mをこえることもある。花期は8-11月頃。茎の先に径2-3cmほどの頭花が集まって咲く。紫色を帯びることが多い。

【呉市における生息状況】

呉市においては、音戸町、倉橋町、安浦町、下蒲刈町の海岸付近や砂浜から報告されている。

【衰亡の要因とその対策】

海浜開発や埋立て、道路工事などによって、生育地が著しく減少している。



呉市下蒲刈町 2016年12月25日

モリアザミ

環境省 なし

Cirsium dipsacolepis

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

乾燥した山野の草原に生える多年草。茎の高さは50-100cmで、細毛が生える。下部の葉は長い柄があり、往々にして羽状に切れ込む。茎葉は広線形で先は尖り、ほぼ全縁となる。花期には根生葉はなくなる。9-10月頃、枝先に頭を直立する。総苞は幅3-4cmで、総苞片は広く開出して棘状になる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山や灰ヶ峰に記録があるが、近年は全く生育が確認されていない。

【衰亡の要因とその対策】

草地開発や土地造成、道路工事などによって、生育地が著しく減少している。



(撮影：山根蓉子)

アイアシ

環境省 なし

Phacelurus latifolius

広島県 準絶滅危惧



呉市倉橋町 2016年10月23日

【種の概要】

海岸の砂浜や塩湿地などに生える多年草。茎は太くて硬く、高さ0.8-1.2mになる。根茎を伸ばして、繁茂する。葉は厚く広線形で、長さ20-40cmになる。花期は6-10月。花序は長さ10-25cmで、各節に小穂を2個ずつ付ける。芒はない。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町の2ヶ所の塩湿地や砂浜から報告されている。県内においては、広島市西区井口や廿日市市からも報告されていたが、絶滅したものと思われる。

【衰亡の要因とその対策】

海浜開発や河川開発、土地造成などにより、生育地が減少している。



呉市倉橋町 2016年10月23日

アオテンナンショウ

環境省 なし

Arisaema tosaense

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

暖地の山地林内に生育する多年草。全体が緑色。球茎から偽茎を伸ばし、ふつう葉柄や花茎より長い。葉は1個か2個つける。小葉は7-11枚つけ、鳥足状になる。花期は5-6月。仏炎苞は緑色で、口辺部は外曲する。付属体はこん棒状で、先は円形になる。雌雄異株。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事など、また生育地の自然遷移によって、生育地が減少している。

【特記事項】

県内では県東部と呉市・江田島市に隔離的に分布する。

【呉市における生息状況】

呉市においては、1か所。蒲刈町の樹林内に生育している。

シオクグ

環境省 なし

Carex scabrifolia

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

海水が出入りする海岸湿地に群生する多年草。地下茎を伸ばし、茎は高さ30-50cm。葉は細長く、やや硬い。基部の鞘は暗赤褐色になる。花期は5-7月頃。上部の線形の小穂は雄性で、下部の長楕円形の小穂は雌性。果胞は楕円形。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町、音戸町、安浦町、下蒲刈町等の塩湿地などから報告されている。

【衰亡の要因とその対策】

埋め立てや土地造成、道路工事などによって、生育地が減少している。



呉市音戸町 2015年6月16日

エビネ

環境省 準絶滅危惧

Galanthe discolor

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

常緑性の地上ラン。地表近くに偽鱗茎が連なり、葉を2-3枚つける。葉には5本の脈があり、基部には明らかな柄がある。4-5月に高さ30-40cmの花茎を直立し、先に10-15個の花を円柱状につける。花の色には変異が多いが、唇弁は3裂し、中央裂片の先はへこむ。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町、下蒲刈町、蒲刈町、安浦町などにおいて記録があるが、個体数は少ない。近年、灰ヶ峰において大きな群落が報告されている。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事などによって、生育地が減少している。また、過度の採取によっても、減少している。

【特記事項】

栽培されている株はウィルス病に侵されているものが多く、復元目的で野外に植え戻すことは控えたい。



呉市灰ヶ峰 2016年5月21日

コバノトンボソウ

環境省 なし

Platanthera tipuloides var. *nipponica*

広島県 準絶滅危惧



呉市灰ヶ峰 2013年7月7日

【種の概要】

日当たりのよい湿った草原や湿原に生える多年草。高さ20-40cmの細い茎を直立し、葉を1枚つける。6-8月に、茎の上部に黄緑色の花を数個つける。ふつう花の後ろにある距が後方に跳ね上がる。

【呉市における生息状況】

呉市においては1か所、灰ヶ峰において確認されているが、個体数は極めて少ない。

【衰亡の要因とその対策】

湿地開発や土地造成、道路工事などによって、生育地が減少している。また、過度の採取によっても、減少している。

イチイガシ

環境省 なし

Quercus gilva

広島県 要注意種



呉市安浦町 2016年12月18日

【種の概要】

暖地に生育する常緑高木で、県内沿岸部の神社社叢内に生育している。高さ30mになる。葉は革質の長楕円形で、葉の上半分に鋭い鋸歯をつける。葉の裏には、黄褐色の星状毛を密生する。樹皮は剥がれ落ち、波状の文様ができる。

【呉市における生息状況】

呉市安浦町の亀山八幡神社（広島県緑地環境保全地域）社叢内に生育している。植栽された可能性がある。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事などの改変により、生育地が減少している。

ツメレンゲ

環境省 準絶滅危惧

Orostachys japonicus

広島県 要注意種

【種の概要】

日当たりのよい乾燥した岩上や瓦屋根上等に生える多年草。先がとげ状になった披針形の多肉葉が多くかたまり密生する。秋の終わりに、中心から花茎を伸ばし、クリーム色の花を多数つけ、植物全体が円錐状に見える。花が終わるとその個体は枯れるが、根元に新個体を生じる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、蒲刈町と安浦町に生育している。海岸近くの岩場、人家の石垣の間や瓦屋根上にも生育しているが、個体数は少ない。

【衰亡の要因とその対策】

土地造成や道路工事などにより、また自然遷移による生育地の環境変化により、生育地が減少している。さらには園芸用として採取されることにより、個体数が減少している。

【特記事項】

クロツバメシジミの主要な食草である。



呉市蒲刈町荷島 2016年5月8日

ユキヤナギ

環境省 なし

Spiraea thunbergii

広島県 要注意種

【種の概要】

河川の岸壁や岩地などに生える落葉低木。地際から細い枝を多数伸ばす。4月に、枝全体に白色の花を多数咲かせる。葉がヤナギに似て、花の咲いている様子が雪がかぶったように見えることからこの名がついた。

【呉市における生息状況】

呉市においては、旧市内、川尻町、倉橋町などの川岸等に生育している。ネコヤナギやキシツツジ等とともに、川岸群落を形成している。

【衰亡の要因とその対策】

護岸工事や道路工事、土地造成などにより、自然状態の川岸が少なくなっている。

【特記事項】

都市近郊で野生状態であっても、逸出品の可能性はある。



(撮影：神垣健司)

キシツツジ

環境省 なし

Rhododendron ripense

広島県 要注意種



呉市二級峡 2015年5月6日

【種の概要】

河川の岸壁などに生える半落葉低木。高さ1.5mくらいでよく枝を伸ばす。葉は長い楕円形で、両面には寝た毛をつける。5月に、紅紫色のろうと状の花を咲かせる。雄しべは10本で、がく片は披針形で粘る。

【呉市における生息状況】

呉市においては、広町二級峡の川岸岸壁等に生育している。ネコヤナギやユキヤナギ等とともに、川岸群落を形成している。

【衰亡の要因とその対策】

護岸工事や道路工事、土地造成などにより、自然状態の川岸が少なくなっている。

ミミズバイ

環境省 なし

Symplocos glauca

広島県 要注意種



呉市倉橋町 2017年7月9日

【種の概要】

暖地に生育する常緑広葉樹。若枝は太くて稜がない。はじめは褐色の毛があるが、後に無毛となり、赤褐色を帯びる。葉は狭長楕円形、革質、無毛で上面は光沢がある。先に低い鋸歯が出ることもある。葉期は7-8月。花序は柄が短いので、葉腋につく。雄しべは多数あり、花冠より長く突き出し、葯は紫色を帯びる。種名は、ハイノキの仲間であることと、果実の先がミミズの頭に似ていることによる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、1か所。倉橋町の樹林内に生育している。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事など、また生育地の自然遷移によって、生育地が減少している。

【特記事項】

県内では宮島の樹林内に多く見られるが、宮島以外では極めて稀である。

カンザブロウノキ

環境省 なし

Symplocos theophrastifolia

広島県 要注意種

【種の概要】

暖地に生育する常緑広葉樹。低山から山地にかけて生える小高木で、若枝は帯褐色になる。葉は楕円形で、低い鋸歯があり、革質で上面に光沢がある。下面は淡緑色で、中肋は隆起する。果実は球形で、暗紫色になる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、広町、阿賀町、安浦町、蒲刈町にある神社社叢内を中心に生育している。特に安浦町の亀山八幡神社には比較的多く生育している。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事など、また生育地の自然遷移によって、生育地が減少している。



呉市阿賀町 2017年7月3日

サカキカズラ

環境省 なし

Anodendron affine

広島県 要注意種

【種の概要】

暖地の常緑広葉樹林内に生える常緑のつる植物。枝を切ると白い乳液を出す。葉は革質で対生する。先は鋭く尖る。上面は暗緑色で光沢がある。基部には、5-10mmの柄がある。花期は4-6月。淡黄色の花を多数円錐状につける。果実は角上の袋果で、2個が基部でつながり、水平に開く。

【呉市における生息状況】

呉市においては、倉橋町の神社社叢内だけに生育している。中国地方ではきわめて稀である。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事などによって、生育地が減少している。



呉市倉橋町 2017年7月9日

ヒガンナムシグサ

環境省 なし

Arisaema undulatifolium

広島県 要注意種



呉市灰ヶ峰 2015年3月29日

【種の概要】

山地の林内に生育する多年草。新葉が展開する前に、先に仏炎苞が現れて開花する。球茎から偽茎を伸ばし、葉を2個つける。葉柄は花時には花柄より短い。小葉は7-13枚つけ、鳥足状になる。花期は3-5月。仏炎苞は紫褐色、または緑紫色。口辺部は狭く開出する。付属体はこん棒状で、先はややふくらむ。雌雄異株。

【呉市における生息状況】

呉市においては、灰ヶ峰の林縁部や道路周辺部に生育している。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事など、また生育地の自然遷移によって、生育地が減少している。

【特記事項】

本種は主に県西部に分布し、東部ではタカハシテンナンショウが多い。

ホザキケマン

環境省 なし

Corydalis racemosa

広島県 要注意種

【種の概要】

越年草。茎は分岐し、高さ20-60cmになる。葉は2回羽状深裂する。花は地際に葉を多くつけ、葉は厚く長楕円形状へら形。花期は3-4月。茎の先に淡黄色の総状花序をつける。蒴果は長さ2-4.5cmで線形し、湾曲しない。種子には円錐形の疣がある。

【呉市における生息状況】

2007年に呉市において発見された。県内ではここ1か所のみ。全国的にも稀少である。

【衰亡の要因とその対策】

生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事等）や生育地の環境変化（自然遷移など）により減少している。

ヒメタヌキモ

環境省 準絶滅危惧

Utricularia minor

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

貧栄養な溜池、湿地の水路などに浮遊～沈水状態で生育する小型の食虫植物。植物体は、水底の泥土上にはう。葉には大きく目立つ捕虫囊をつける。水中葉はまばらに互生し、3-4回細裂して、5-10個の裂片に分かれる。花茎が2叉状に分枝、長さ5-15mm。開花期は夏。花は黄緑色の唇形花で、距は短く円錐形。秋、茎頂に殖芽を形成して枯れ、越冬する。

【呉市における生息状況】

呉市においては、野呂山山頂付近の湿原内に生育している。

【衰亡の要因とその対策】

土地造成、道路工事などによる埋め立てや周辺の環境改変による水質悪化によって、生育地が減少している。

【特記事項】

本種は温帯を中心に分布する北方系の植物である。



呉市野呂山 2006年7月30日

ムサシアブミ

環境省 なし

Arisaema ringens

広島県 準絶滅危惧

【種の概要】

暖地の山地林内に生育する多年草。高さが70cmになる。全体が緑色。球茎から偽茎を伸ばし、葉は2個つける。小葉は3枚で、先が糸状に伸びる。5月にあぶみ形の仏炎苞をつける。舷部は筒のふちに広がり、広く耳形となる。雌雄異株。

【呉市における生息状況】

呉市においては、阿賀町情島、下蒲刈町、蒲刈町の常緑樹林や落葉樹林内に生育している。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事など、また生育地の自然遷移によって、生育地が減少している。

【特記事項】

県内では県東部と呉市・江田島市に隔離的に分布する。



呉市蒲刈町田戸 2017年5月7日

コウザキシダ

Asplenium ritoense

環境省 なし

広島県 絶滅危惧 I 類

【種の概要】

常緑性。樹林内の岩上や樹幹部などに生える。根茎は短く、葉を叢生する。葉身は2-4回羽状に深裂し、長さ5-20cmで、卵形から三角状長楕円形。孢子嚢群は裂片に1個つき、長楕円形。

【呉市における生息状況】

呉市においては、2009年に豊島で確認されている。県内ではこの1ヶ所だけである。

【衰亡の要因とその対策】

森林伐採や土地造成、道路工事等に改変や自然遷移による生育環境の変化により、その生育地が失われていくことや、また園芸採取による脅威も考えられる。その生育地の環境保全が望まれる。

デンジソウ

Marsilea quadrifolia

環境省 絶滅危惧 II 類

広島県 絶滅危惧 I 類

【種の概要】

夏緑性の水生シダ植物。根茎は、湿地や水田などの泥中を不規則に分岐して長くはう。葉柄は長さ10-15cmで、先端に緑色の4枚の小葉が田の字に並ぶ。孢子嚢果は葉柄の基部から出る短い枝に1-3個つける。

【呉市における生息状況】

呉市内においては、すでに絶滅している。

【衰亡の要因とその対策】

呉市では本種の生育地であった水田は埋め立てられた。

【特記事項】

水田に大量の農薬が使用されはじめたころから減少したと考えられる。



(山根蓉子撮影)

マツバラ*Psilotum nudum*

環境省 準絶滅危惧

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

常緑性。世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する原始的なシダ植物。山地の樹幹上や岩上に生育する。根も葉もなく、茎は地上茎と地下茎に分かれ、褐色の仮根をもつ。地上茎は長さ30cmになり、数回2又分岐する。孢子嚢群は3個の孢子嚢が合着したもので、ほぼ白色の球形になる。

【呉市における生息状況】

呉市においては、蒲刈町、倉橋町、安浦町で確認されており、いずれも冬でも暖かい瀬戸内海沿岸部になる。

【衰亡の要因とその対策】

生育環境の変化、とくに土地造成や道路工事等に改変により、その生育地が失われていくことや、また園芸採取による脅威も考えられる。



呉市倉橋町 2017年6月25日

ナガサキシダ*Dryopteris sieboldii*

環境省 なし

広島県 絶滅危惧Ⅱ類

【種の概要】

暖地性のシダ植物。山地林下に生え、根茎は長さ70cm前後、幅30cmぐらいで、斜めに立ち上がる。葉は常緑性で、厚い革質状。葉身は単羽状で、はっきりした頂羽片をもつ。孢子嚢群は円腎形で、羽片の裏面に散在してつく。

【呉市における生息状況】

呉市においては、白岳山と灰ヶ峰から確認されている。いずれも株数は1-3個体ほどで、群生することはない。

【衰亡の要因とその対策】

白岳山の本種の個体群については、30年以上前からその生育の確認がされている。今後生育環境の変化、とくに道路の改修工事等に改変により、その生育地が失われていくことが考えられる。



呉市広町・白岳山 2017年7月8日

ヒメウラジロ

Cheilanthes argentea

環境省

絶滅危惧Ⅱ類

広島県

準絶滅危惧



【種の概要】

常緑性のシダ植物。日当たりのよい岩上や石垣に生育する。根茎は短く、葉柄は紫褐色で光沢があり、折れやすい。葉は五角形状でやや厚く、長さ幅ともに3-10cmになる。表面は緑色、裏面は、白色の粉状物を密布する。葉身には数対の羽片を生じ、最下羽片を除いて、中軸に広くつき、流れて翼をつくる。葉の縁は反り返った苞膜となり、胞子囊群を包む。乾燥すると葉は巻いて強縮するが、水分が加わると開いて元の状態に戻る。

【呉市における生息状況】

呉市においては、石垣などにおいて比較的多くの集団が確認されているが、いずれの産地でも個体数は少ない。県内では沿岸部の暖地に多いが、冬季寒い所では葉が枯れる。

【衰亡の要因とその対策】

道路の改修拡張工事等による岩壁の掘削や石垣の取り壊しには注意が必要である。

【特記事項】

県南部、特に石灰岩や中・古生層の地域に多い。

和名索引

【ア行】		カンムリセスジゲンゴロウ	48
アイアシ	82	キイロサナエ	43
アオテンナンショウ	82	キイロヤマトンボ	36
アオハダトンボ	41	キシツツジ	86
アオヤンマ	44	キンラン	73
アカハライモリ	27	キゴシジガバチ	51
アキイトスゲ	73	キバラハキリバチ	52
アサカミキリ	34	キビヒトリシズカ	69
アマツバメ	18	ギフチョウ	53
イカルチドリ	14	キマダラモドキ	40
イシモチソウ	69	クイナ	13
イソカネタタキ	56	クツワムシ	56
イソシギ	17	クマタカ	9
イソジョウカイモドキ	58	クロカタビロオサムシ	57
イチイガシ	84	クロサギ	11
イトアメンボ	32	クロジ	20
イナコスズ	72	クロツバメシジミ西日本亜種	54
イワタイゲキ	77	クロホシコガシラミズムシ	47
イワツクバネウツギ	80	クロモンマグソコガネ	39
ウスルリモンハナバチ	59	ゲンバイトンボ	42
ウラギク	81	ケシウミアメンボ	46
ウラギンスジヒョウモン	60	ゲンカイツツジ	78
ウラナミアカシジミ	39	ゲンゴロウ	33
ウラナミジャノメ本土亜種	41	コウザキシダ	90
エビネ	83	コウベツブゲンゴロウ	48
エリザハンミョウ	47	コオイムシ	46
オオウラギンヒョウモン	30	コガタノゲンゴロウ	33
オオサンショウウオ	26	コノハズク	7
オオタカ	12	コバネアオイトトンボ	31
オオムラサキ	54	コバノトンボソウ	84
オキナグサ	68	コマドリ	8
オシドリ	16	コマルケシゲンゴロウ	57
オオヒキヨモギ	79		
オオフタホシマグソコガネ	50	【サ行】	
		サカキカズラ	87
【カ行】		サギソウ	74
カスミサンショウウオ	25	サシバ	9
カツラネクイムシ	58	サラサヤンマ	44
カヤキリ	56	サンショウクイ	11
カヤネズミ	5	シオクグ	83
カワツルモ	66	シバナ	65
カワラスズ	45	シャープツブゲンゴロウ	38
カワラバッタ	32	ジュウクホシテントウ	51
カンザブrouノキ	87	シルビアシジミ本土亜種	34
カンムリウミスズメ	14	シロウミアメンボ	38

シロエリオオハム	6	ハネビロエゾトンボ	31
シロスジコガネ	50	ハバチビドロムシ	58
シロハラ	18	ハマウド	77
シロマダラ	24	ハマガニ	63
スナガニ	61	ハマサジ	78
スナメリ	4	ハマヨモギ	80
セアカオサムシ	47	ハヤブサ	13
【タ行】		ハンゲショウ	76
タイワンクツワムシ	45	ヒガンマムシグサ	88
タカチホヘビ	23	ヒクイナ	10
タガメ	32	ヒナノシャクジョウ	66
タシロラン	68	ヒナラン	67
タマシギ	6	ヒメアカネ	55
タワヤモリ	21	ヒメウラジロ	92
チビマルガムシ	49	ヒメタヌキモ	89
チャイロマメゲンゴロウ	57	ヒメヒカゲ本州西部亜種	40
ツマグロキチョウ	59	ヒメケシゲンゴロウ	48
ツメレンゲ	85	ヒョウモンモドキ	35
テンジソウ	90	フウトウカズラ	76
トウオオバコ	71	フクイアナバチ	51
トキソウ	74	フクド	80
トノサマガエル	29	フシキキシタバ	52
トモクニセスジゲンゴロウ	49	ブチサンショウウオ	28
【ナ行】		ベニイトトンボ	55
ナガサキシダ	91	ホウネンエビ	63
ナギサスズ	45	ホオアカ	19
ナニワトンボ	37	ホザキキケマン	88
ナミキソウ	79	ホソコハナムグリ	50
ニホンアカガエル	29	ホンゴウソウ	72
ニホンイシガメ	23	【マ行】	
ニホンイタチ	5	マイコトラガ	52
ニホンオオカミ	4	マイヅルテンナンショウ	67
ニホンカワウソ	4	マツナ	75
ニホンスッポン	24	マツバラシ	91
ニホントカゲ	22	マミジロ	15
ニホンヒキガエル	27	マルエンマコガネ	49
ネアカヨシヤンマ	36	ミシマサイコ	64
ノスリ	16	ミゾゴイ	8
【ハ行】		ミミズバイ	86
ハイタカ	17	ミヤコミズ	75
ハクセンシオマネキ	62	ミヤマサナエ	35
バクチノキ	70	ミヤマホオジロ	19
ハタケノウマオイ	46	ムカシヤンマ	43
ハチクマ	12	ムサシアブミ	89
ハツチヨウトンボ	37	ムスジイトトンボ	42
		ムラサキ	64
		ムラサキミミカキグサ	71

モリアザミ 81

【ヤ行】

ヤイロチョウ 7

ヤマセミ 15

ヤマビワ 70

ヤマトオサムシダマシ 33

ユキヤナギ 85

ヨタカ 10

【ラ行】

リュウノヒゲモ 65

ルイスハンミョウ 38

レッドデータブックくれ

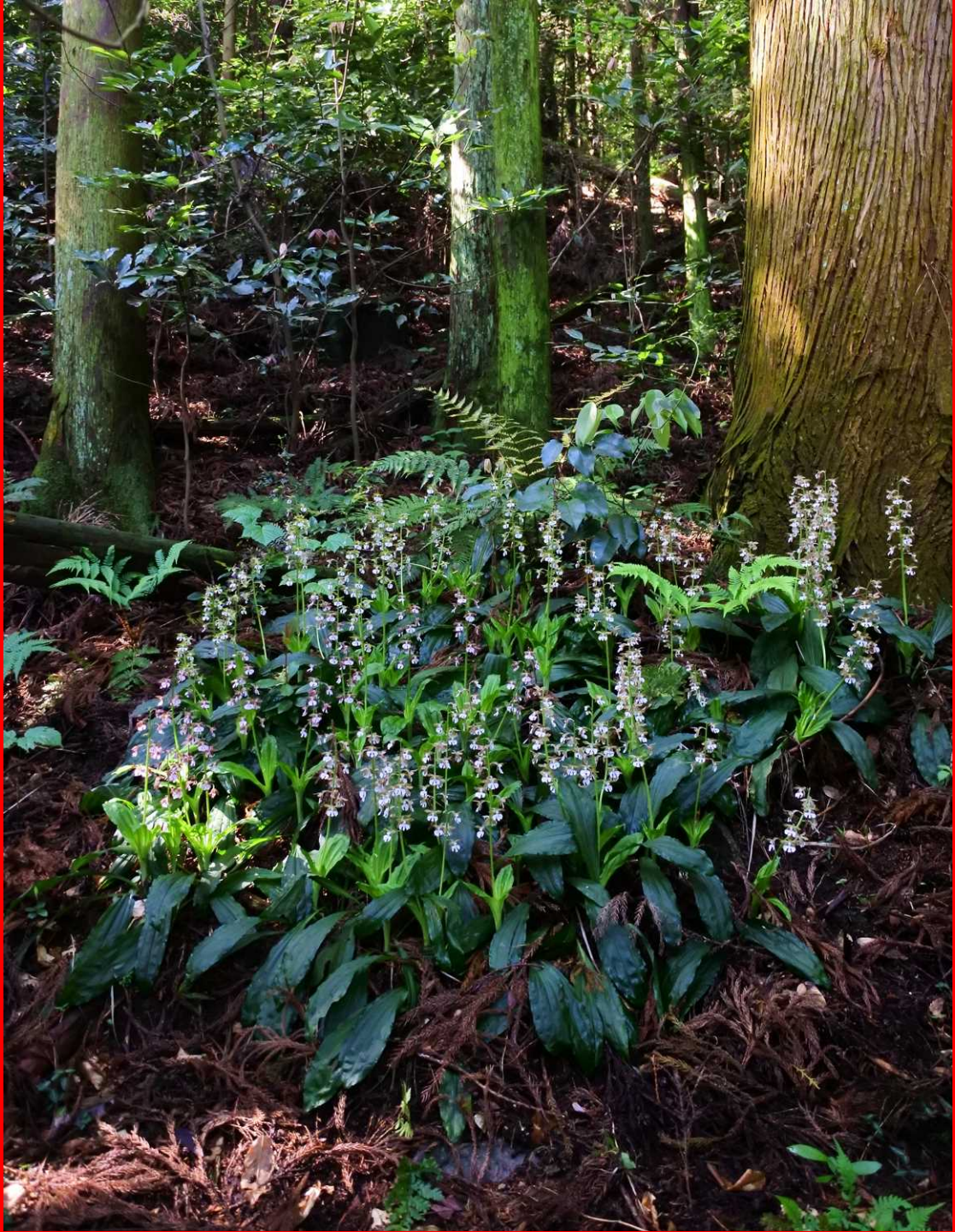
～ 呉市の絶滅のおそれのある野生動植物 ～

平成30年（2018年）3月 発行

発 行 くれ環境市民の会
〒737-8501
広島県呉市中央4丁目1番6号 呉市環境政策課

編 集 ひろしま自然の会
〒737-0113
広島県呉市広横路4丁目4番32号 神垣健司方

印 刷 株式会社 トライ・エックス
〒737-0045
広島県呉市本通4丁目5番17号



レッドデータブックくれ